

社会福祉法人初穂会
平成30年度

事業報告



特別養護老人ホーム稲毛こひつじ園
短期入所生活介護
通所介護
居宅介護支援

ほっとスペース稲毛ペコリーノ

-目次-

| | | |
|---|-------------------------------------|---------|
| 1 | 平成 30 年度 社会福祉法人 初穂会 役員名簿・組織図・事業報告概要 | 1. 2. 3 |
| 2 | 平成 30 年度 事業実績報告 特養・短期入所・通所介護・居宅介護 | 5 |
| 3 | 平成 30 年度 各部門実績報告 | |
| | 3-1 介護部門 | 9 |
| | 3-2 医務部門 | 14 |
| | 3-3 生活相談員部門 | 17 |
| | 3-4 介護支援専門員部門 | 18 |
| | 3-5 栄養部門 | 20 |
| | 3-6 短期入所生活介護部門 | 29 |
| | 3-7 介護予防通所介護・通所介護部門 | 32 |
| | 3-8 居宅介護支援部門 | 36 |
| | 3-9 ボランティア部門 | 38 |
| | 3-10 機能訓練部門 | 39 |
| | 3-11 事務部門 | 41 |
| | 3-12 研修部門 | 44 |
| | 3-13 営繕部門 | 48 |
| | 3-14 入浴部門 | 52 |
| 4 | 各委員会実績報告 | |
| | 4-1 安全対策委員会 | 54 |
| | 4-2 衛生委員会 | 56 |
| | 4-3 褥瘡対策委員会 | 58 |
| | 4-4 防災委員会 | 60 |
| | 4-5 食中毒蔓延防止・感染対策委員会 | 62 |
| | 4-6 広報行事委員会 | 64 |
| | 4-7 身体拘束・虐待防止委員会 | 66 |
| | 4-8 教育研修委員会 | 67 |
| | 4-9 排泄支援委員会 | 69 |
| 5 | 地域福祉部門 | 70 |
| 6 | ほっとスペース 稲毛ペコリーノ | 72 |

平成31年3月31日現在

| 理事会・評議員会名簿 | | |
|-------------------|-----------|--------------|
| 職種 | 氏名 | 任期 |
| 理事長 | 林 隆春 | 令和元年定時評議員会まで |
| 理事 | 勝山裕則 | 令和元年定時評議員会まで |
| 理事 | 佐々木秀幸 | 令和元年定時評議員会まで |
| 理事 | 鳥越 浩 | 令和元年定時評議員会まで |
| 理事 | 濟木昭宏 | 令和元年定時評議員会まで |
| 理事 | 松崎泰子 | 令和元年定時評議員会まで |
| 理事 | 加藤裕二 | 令和元年定時評議員会まで |
| 監事 | 竹下幸男 | 令和元年定時評議員会まで |
| 監事 | 田村千代子 | 令和元年定時評議員会まで |
| 評議員 | 室伏佑香 | 令和3年定時評議員会まで |
| 評議員 | 高橋和男 | 令和3年定時評議員会まで |
| 評議員 | 野上正江 | 令和3年定時評議員会まで |
| 評議員 | 時田美奈 | 令和3年定時評議員会まで |
| 評議員 | 野中隆広 | 令和3年定時評議員会まで |
| 評議員 | 宮本圭子 | 令和3年定時評議員会まで |
| 評議員 | 松原忠司 | 令和3年定時評議員会まで |
| 評議員 | 鳥屋部浩則 | 令和3年定時評議員会まで |

平成30年度社会福祉法人初穂会事業報告概要

平成30年度は、平成29年度に選定を受けた新規事業（仮称 幕張こひつじ園）の準備を進めておりましたが、不本意ながら辞退することになりました。

介護人材不足も深刻であり特養稼働率90%まで落ち込んだ。ケアに関しては日本ユニットケア推進センター研修によりユニットケアの取り組み「暮らしの継続」個々の対応、24時間シート、ユニット盛り付けを実践することが出来た。

また、地域福祉として今まで取り組んできた地域カフェ、こども食堂に続き千葉市社会福祉協議会と連携し買い物支援の実践が出来た。

平成31年度は新体制のもと介護人材不足は稲毛ペコリーノ活用した職員獲得、学校訪問での新卒採用、外国人採用（技能実習、特定技能）推進していき教育研修室中心に新入職員、施設内研修にてケアに対する知識向上に努める。

また、ガバナンス強化、財務規律の強化がはかれるようにしていきたいと思えます。

社会福祉法人初穂会 理念

“生きる力の輝きを称え共に歩んでいきます”

高齢者や障害者を含む地域の全ての人が互いに助け合い大切さにされ、自分らしく生活できる“時間と空間作り”を通して笑顔と思いやりに満ちた社会の実現を目指します。

基本方針

- 1 利用者一人ひとりにあった暮らしの支援
- 2 利用者の思いの尊重
- 3 地域と共に築く施設
- 4 利用者と共に共感出来る職員
- 5 利用者の信頼に応える人材育成

平成30年重点目標

1 人材によるサービス体制の質の向上

⇒下半期より採用活動が進んでおらず人員確保出来ず夜勤者不足に悩まされた。夜勤回数や時間外勤務が増加し職場環境の悪化が見れた。

2 適正な収入の確保と処遇改善及び福利厚生 の 充実

⇒人員不足により特養稼働率90%新規入居者の受け入れが出来ない時期があった。JTBやオリエントランド利用料補助は職員からも好評。

3 新卒者採用

⇒学校訪問出来ず来年度求人解禁日からペコリーノ中心に活動する。

4 見守りセンサー介護ロボット等の I C 関連の導入による働き方改革の実践

⇒センサーマットの試験導入など実践したが機械の誤作動もあり導入が出来ておらず、また、導入の金額が大きいため他社見積もりや補助金の確認行い、理事会にて報告していく。

5 ユニット玄関の設置と環境整備の加速

⇒ユニットケアの導入にて建付けや消防の問題もあり1ユニットの導入にとどまっている。金額も大きく徐々に進めていく。ユニット内の設えはユニット費の導入で各ユニット特徴がでている。

6 5 S 活動（整理、整頓、清潔、清掃、躰）の推進と作業効率化

⇒生活支援員の導入でユニット内の清潔保持出来た。

7 地域社会との連携及び社会貢献の強化

⇒地域カフェ、こども食堂に続き、買い物支援も実践できた。秋祭り開催時は、萩台天台あざみ会、萩台わかば会と連携しお祭り開催できた。

8 リスクマネジメントの充実と内部留保の対策

⇒開設13年目にて建物の老朽化修繕費の積み立てが必要と思われる。

9 幕張こひつじ園開設に向けた開設準備体制の構築

⇒千葉市へ辞退の申し入れする。

2 平成30年度 事業実績報告

特養定員90名

介護保険者別入所者状況

()内は平成29年度末時点

| | 保険者 | 地区 | 在籍 | 申込 | 優先入居 |
|----|-----|-----|---------|-----------|---------|
| 千葉 | 千葉市 | 稲毛区 | 36 (39) | 56 (47) | 20 (15) |
| | | 中央区 | 9 (10) | 8 (10) | 0 (2) |
| | | 花見川 | 6 (8) | 4 (4) | 0 (0) |
| | | 若葉区 | 10 (12) | 25 (20) | 9 (7) |
| | | 緑区 | 0 (0) | 0 (0) | 0 (0) |
| | | 美浜区 | 6 (8) | 6 (6) | 3 (3) |
| 他 | | | 13 (13) | 21 (21) | 3 (3) |
| 計 | | | 80 (90) | 120 (108) | 35 (30) |

待機者状況

| | 期首 | 期末 | 入所 |
|-----------|-----|-----|----|
| 性別計 | 108 | 120 | 17 |
| 男 | 34 | 40 | 5 |
| 女 | 74 | 80 | 12 |
| 自宅 | 49 | 52 | 7 |
| グループホーム | 4 | 3 | 1 |
| 病院 | 12 | 19 | 4 |
| 介護老人保健施設 | 19 | 23 | 4 |
| 特別養護老人ホーム | 1 | 1 | 1 |
| 他 | 23 | 22 | 0 |

月別入所状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 月初 | 90 | 89 | 88 | 86 | 89 | 86 | 89 | 86 | 86 | 81 | 81 | 78 | |
| 入所 | 0 | 1 | 1 | 4 | 0 | 3 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 3 | 17 |
| 退所 | 1 | 2 | 3 | 1 | 3 | 0 | 4 | 1 | 5 | 2 | 4 | 1 | 27 |
| 月末 | 89 | 88 | 86 | 89 | 86 | 89 | 86 | 86 | 81 | 81 | 78 | 80 | |

実績稼働率

| | 実績 | 稼働率 | 前年実績 | 前年稼働率 |
|-----|--------|-------|--------|-------|
| 4月 | 2,634 | 97.6 | 2,700 | 100 |
| 5月 | 2,617 | 93.8 | 2,777 | 99.5 |
| 6月 | 2,517 | 93.2 | 2,624 | 97.2 |
| 7月 | 2,618 | 93.8 | 2,710 | 97.1 |
| 8月 | 2,598 | 93.1 | 2,771 | 99.3 |
| 9月 | 2,548 | 94.4 | 2,619 | 97.0 |
| 10月 | 2,564 | 91.9 | 2,742 | 98.3 |
| 11月 | 2,440 | 90.4 | 2,633 | 97.5 |
| 12月 | 2,467 | 88.4 | 2,751 | 98.6 |
| 1月 | 2,408 | 86.3 | 2,691 | 96.5 |
| 2月 | 2,162 | 85.7 | 2,458 | 97.5 |
| 3月 | 2,391 | 85.6 | 2,773 | 99.4 |
| 計 | 29,964 | 90.0% | 32,249 | 98.2% |

年齢状況

平成31年3月31日現在

| 区分 | 男 | 女 | 計 |
|----------|------|------|------|
| 69歳以下 | 0 | 0 | 0 |
| 70歳から79歳 | 5 | 9 | 14 |
| 80歳から89歳 | 4 | 20 | 24 |
| 90歳から99歳 | 7 | 34 | 41 |
| 100歳以上 | 0 | 1 | 1 |
| 計 | 16 | 64 | 80 |
| 平均年齢 | 85.3 | 88.9 | 88.2 |

介護度別状況

平成31年3月31日現在

| 介護度 | 男 | 女 | 計 |
|-------|-----|-----|------|
| 1 | 0 | 1 | 1 |
| 2 | 0 | 2 | 2 |
| 3 | 7 | 23 | 30 |
| 4 | 7 | 20 | 27 |
| 5 | 2 | 18 | 20 |
| 合計 | 16 | 64 | 80 |
| 平均介護度 | 3.7 | 3.8 | 3.78 |

面会者の状況

| H30 年度 | 面会 件数 | 面会 人数 |
|--------------|--------------|--------------|
| 4 月 | 566 | 762 |
| 5 月 | 548 | 727 |
| 6 月 | 522 | 686 |
| 7 月 | 499 | 663 |
| 8 月 | 544 | 710 |
| 9 月 | 578 | 814 |
| 10 月 | 556 | 742 |
| 11 月 | 490 | 639 |
| 12 月 | 524 | 695 |
| 1 月 | 530 | 738 |
| 2 月 | 445 | 560 |
| 3 月 | 514 | 657 |
| 合計 | 6,316 | 8,393 |
| 平均 | 526 | 699 |
| 1 日平均 | 17.5 | 23.3 |

<短期入所稼働率>

() 内は平成29年度

| | 実績 | 稼働率 |
|------|---------------|--------------|
| 4 月 | 537 (499) | 99.4 (92.4) |
| 5 月 | 530 (515) | 94.9 (92.3) |
| 6 月 | 528 (461) | 97.8 (85.4) |
| 7 月 | 521 (498) | 93.4 (89.3) |
| 8 月 | 518 (506) | 92.8 (90.7) |
| 9 月 | 463 (496) | 85.7 (91.9) |
| 10 月 | 527 (548) | 94.4 (98.2) |
| 11 月 | 481 (541) | 89.1 (100.2) |
| 12 月 | 547 (550) | 98.0 (98.6) |
| 1 月 | 531 (548) | 95.2 (98.2) |
| 2 月 | 476 (473) | 94.4 (93.3) |
| 3 月 | 519 (548) | 93.0 (98.2) |
| 計 | 6,178 (6,183) | 94.0 (94.1) |

通所介護 月間利用状況 延べ人数

| 区分 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 平均 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 営業日数 | 25 | 27 | 26 | 25 | 27 | 25 | 27 | 26 | 26 | 24 | 24 | 26 | 308 | 25.7 |
| 平均利用人数 | 22.6 | 23.4 | 21.9 | 22.6 | 20.6 | 20.8 | 20.4 | 19.6 | 20.0 | 20.2 | 20.5 | 21.4 | | 21.2 |
| 月合計 | 565 | 632 | 576 | 566 | 555 | 519 | 550 | 510 | 521 | 485 | 493 | 557 | 6529 | 544.1 |
| 稼働率 | 75.3 | 78.0 | 73.1 | 75.5 | 68.5 | 69.2 | 67.9 | 65.4 | 66.8 | 67.4 | 68.5 | 71.4 | | 70.6 |

居宅介護支援稼働率

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 実績 | 73 | 70 | 72 | 73 | 68 | 70 | 69 | 69 | 68 | 71 | 67 | 69 | 839 |
| 稼働率 | 93.6 | 89.1 | 88.6 | 93.6 | 87.2 | 89.7 | 88.5 | 88.5 | 87.2 | 91.0 | 85.9 | 88.5 | |

3 平成 30 年度 各部門実績報告

3-1 介護部門

【 目 標 】

- I. 今までの暮らしの継続ができるケアを提供する
(ユニットケアの推進を図ることにより今までの暮らしを継続して頂く)
- II. 業務の明確化により多職種連携を図る
- III. 介護・福祉の知識技術に加え幅広い社会性をもった人材の育成
- IV. リスクマネジメント対応
- V. 平成 30 年度介護保険法改定に対応した介護の実践
- VI. 地域との連携

【 具体的方策 】

- I. ユニットケア推進部門と連携しながら、利用者様一人ひとりの個性や生活のリズムを知り、今までの暮らしの継続を目指したケアを提供していく。また、設え等を工夫し安心して過ごすことができる場所の提供をする。
 - ① 24 時間シートの作成により一人ひとりの生活リズム等を把握する。
平成 30 年度上期を目安に全入居者の 24 時間シート作成でき、ユニットケア実践の評価を行い、下期の活動に反映させる。
 - 1) 24 時間シートの作成状況、理解度の確認
 - 2) ユニットにおける年間目標及び予定の進捗状況を把握
 - 3) ユニット毎の設えの整備
 - 4) ユニット盛り付けについて、準備の整ったユニットから順次開始する
 - 5) ユニット費の適切な運用ができているか評価する

⇒ 24 時間シートはユニット職員が作成し 8 月より全ユニットが運営を開始することが出来た。ユニット盛り付け昼食のみでしたが 9 月から夕食、朝食と段階的に開始が出来た。また、ユニット費の運営も開始し、設えに関してユニット独自の物が出来ている。3 月にユニット費を精算し問題なく運用ができた。

②ユニットケアに対する理解を深める取り組みの実践

- 1) 各ユニットリーダー、職員はユニットケアの取り組みについての研修に参加し理解を深める。ユニット会議の定期開催時にもユニットケアについての学びの場を設ける。
- 2) 24時間シート作成方法の指導を、ユニットケアプロジェクトチームの職員から受ける。
- 3) ユニットケア推進センター主催の外部研修へ参加することで、最新のユニットケアについての理解を深める。さらに他施設の取り組みを学び、当園でのユニットケアに生かす。

⇒ユニット推進委員会より24時間シート作成指導、相談員の指導によりユニットリーダーだけではなく一般職員作成が出来た。

③ユニットケアに関する外部研修

- 1) ユニットリーダー研修に2名以上参加する
- 2) 専門職研修に看護職、栄養士各1名参加する
- 3) じっくり取り組みコースに3名以上参加する

⇒9月以降職員不足により外部研修の参加が出来なくなった。また、委員長の不在職員不足により委員会参加率も減少してしまった。

④利用者様、家族様からの希望により看取り介護の提供

- 1) 稲毛こひつじ園ターミナルマニュアルに沿って支援を行う

⇒今年度は7名の看取り介護を実施出来た。

II. 従来の業務を見直し明確化し、現状に合わせた体制を再編することにより更なる多職種連携を図る

① 業務の明確化

- 1) フロアリーダー、ユニットリーダー、介護スタッフ、補助職員、配膳職員各職種の業務内容を細分化することで、組織の指揮命令系統を明確にし、キャリアパスを構築する

- 2) 業務引継書の内容を明確化することで、担当ユニットが変更になっても円滑に介護業務が行われ、入居者のケアに支障が出ないように努める

⇒フロアリーダーを配置することが出来ずフロア間の調整が出来なかった。

② マニュアル等の再編

- 1) ケアマニュアルの再作成を行い、施設のケア方針を全職員に示す
- 2) ユニット会議、フロア会議などで業務の見直しを定期的に行い、適宜ケアマニュアルの改訂を行う
- 3) ヒヤリハット活用法についての取り扱いを明確にし、事故発生を予防すると共

に再発防止策を講じていく

- 4) 再編したマニュアルを各ユニットに配布、ユニット会議等で内容確認
⇒今年度中のケアマニュアルは作成できず、来期は教育研修室が中心となって作成中である。

③ 報告・連絡・相談の徹底

- 1) 報告・連絡手段を適切に利用できる
メール、報告書、会議等
- 2) 報告・連絡した内容が正確に伝わっているかの確認を行う
他職種との連携構築の中心となれるようユニットからの情報発信を自発的かつ積極的に行う。
⇒人員不足にて会議参加率が低いため事前の勤務調整や会議開催案内を各委員長より発信していく。

Ⅲ. 外部研修部門、教育研修委員会、稲毛ペコリーノと連携し介護・福祉の知識技術に加え幅広い社会性をもった人材の育成を目指す

① 教育ユニットの機能向上を目指す

- 1) 指導内容の見直し
現場業務の流れ
緊急時対応、伝達・記録等
- 2) 教育ユニットへ配属期間の明確化
未経験者 原則 4 週間、経験者 原則 2 週間
- 3) 稲毛ペコリーノとの連携
入職時における専門的な研修
⇒稲毛ペコリーノと連携して新入職員の研修、ユニットでの指導

②内部、外部研修へ参加できる環境の工夫

- 1) 勤務分担、シフトの調整
- 2) 研修へ参加推進の啓蒙活動
- 3) 稲毛ペコリーノとの連携
資格取得支援
⇒人員不足により不参加ではなく、シフト調整やヘルプ職員要請など工夫し参加率を上げていく、奨学金制度も活用し資格取得を目指す

③ E P A、技能実習生受け入れ対応

- 1) 法人による受け入れ支援に加え教育担当による業務指導対応
- 2) EPA の先輩職員に技能実習生の生活面でのサポートを担わせ、技能実習生が安心して働くことのできる環境を整える
⇒今年度 E P A 介護福祉士 1 名合格することが出来た。もう 1 名は来年へ向けて研

修計画を立てて日本語研修、介護福祉士対策講座をペコリーノで開催しサポートしていく。

技能実習生の受け入れ準備を31年度に実施する。(秋口目途に)

IV. 関連する委員会と連携しリスクマネジメント対応を実施する

①事故予防対応・対策

- 1) ヒヤリハットの活用及び事故後の対応について予防、改善策の周知徹底
- 2) ご入居者様の離園など、実際の事故を想定し職員の動きを確認するための訓練を行う

②防災訓練の充実

- 1) 防災訓練に参加できる体制の構築、定期的参加
 - 2) 平常時からの対応(入職時、定期)教育
- ⇒防災訓練は年2回夜間想定(1回)実施が出来た。

V. 関連する委員会と連携し平成30年度介護保険法改定に対応したケアを推進する

①褥瘡マネジメント加算の取得

- 1) 入居者ごとに「介護保険制度におけるサービスの質の評価に関する調査研究事業」のモニタリング指標に基づき、施設入所時に褥瘡発生リスクを評価。その後も3カ月ごとに評価を行う。
 - 2) 評価の結果、褥瘡発生のリスクが高い入居者には褥瘡ケア計画を作成し、褥瘡予防に努める。
 - 3) 3カ月に1回以上、褥瘡ケア計画を更新する。
- ⇒ユニットで褥瘡計画作成済、現在見直しを実施中、加算は未実施。

②排泄支援加算の取得

- 1) 排泄に介護を要する入居者のうち、身体機能の向上や環境の調整によって排泄にかかる要介護状態を軽減できると嘱託医、または看護師が判断した入居者を対象に排泄に介護を要する原因についての分析を行う。
 - 2) 分析結果を踏まえた支援を実施する。
- ⇒加算に関しては嘱託医との連携が難しく算定していない。

② 低栄養リスク改善加算の取得

- 1) 管理栄養士によるスクリーニングによって選定された低栄養リスクの高い入居者に対して、多職種による定期的な食事状況の観察を実施、食事形態の調整を行う。
- ⇒管理栄養士にて算定、しかし退職のため4月よりは算定不可。

VI. 地域交流活動部門と連携し地域との交流を推進して、今まで以上に施設に対する理解を得る

①地域住民との交流

- 1) 年間行事に、萩台あざみ自治会を通じて地域住民を呼びこみ、入居者が地域と交流できる機会を設ける
- 2) 各種演芸ボランティアを受け入れ、入居者が楽しみを感じて頂けるよう努める
- 3) 個人のボランティアを受け入れ、話し相手、将棋・囲碁の対局などの趣味活動を充実させる

⇒ボランティアに関しては定着している。萩台の住民と交流する機会が増やす努力は必要と思われる。

②地域・福祉活動部門との連携

- 1) 地域カフェ開催日を入居者の家族へ周知し参加者を募る
- 2) こども食堂の内容を職員に周知し、参加者を募る
- 3) ボランティアの新規受け入れからアフターフォローまでを行うことで継続的にボランティアが活動できるよう、ボランティアコーディネーターを選定する

⇒地域カフェ、こども食堂は定着している。今年度より買い物支援サービスを開始し好評である。31年度は萩台わかば会からも声がかかっているため対応し地域の中に入り込めたらと思います。

介護全体では、秋口より職員不足が深刻になり夜勤者不足、夜勤回数増加、職員の負担もおおくなり退職者が出てしまった。相談員や教育研修、事務、施設長が夜勤業務に入っている状態から抜け出していかなければならない。

介護職採用についてはこひつじ園特化した打ち出しをしないと難しい状況である。(給与規定、夜勤手当見直しが必要かと思われる)

ケアに関しては以前に比べると入居者個々の対応している。常に見直しをかけて良いケアを探し努力しており入居者様が安心安全に生活出来るように支援していきます。

3 - 2 医務部門

【目標】

- I. 入居者様が心身共に、日々穏やかに過ごせるよう努める
- II. 介護、医療連携の充実を図る
- III. 地域に根ざしたこひつじ園の継続
- IV. 職員の健康増進

【施策・評価】

I. 入居者様が心身共に、日々穏やかに過ごせるよう努める。

1. 早番帯・遅番帯で各ユニットを巡視。また、介護職員から情報伝達を実施し入居者様の異常の早期発見に努めた。更に、入居者様へ積極的に声をかけ、心身共に変わった様子がないか観察に努めた。
2. 介護職員だけでなく、相談員・機能訓練士・栄養士等、他職種との連携を図り、入居者様が日々穏やかに過ごすため情報伝達・情報共有に努めた。
3. 週1回の回診時では、嘱託医へ入居者様の情報伝達を実施。また内服薬等の相談を行い、入居者様の健康管理に努めた。
4. 内服薬の管理に関しては、医務職員間でダブルチェックを実施。配薬忘れや誤薬事故防止に努めた。誤薬事故は起こすことなく済んだが、配薬忘れについては何例か起きてしまった。次年度では、内服薬のミスを起こさぬよう医務職員一人一人が注意していく。またダブルチェックを徹底して実施していく。

II. 介護、医療の連携の充実を図る。

1. 人員不足に伴う伝達不足や周知徹底が不十分となり、ユニット間との連携に影響があった。医務内での連絡ノートの活用・ユニット間での連絡ファイルの活用にて書面でも記録が残るよう対応したが、今年度は十分に活用できたとはいえない結果となった。次年度は連絡ノートや連絡ファイルの活用を充実させていきたい。他職種の職員とのコミュニケーションを積極的に図り、話しやすい環境作りから、他職種連携につながるよう努めた。今年度は委員会やカンファレンスへの参加が困難な状態であり、他職種間や家族との話し合いに十分参加できなかつた。次年度は日常業務を工夫し、委員会やカンファレンスへ積極的に参加し他職種との連携を図っていく。
2. 医療機関との連携は、受診依頼書や温度板を医療機関へ提出し情報伝達に努めた。また、他職種の職員からの情報で早めの受診対応を実施重症化防止に努めた。今後も入居者様が体調不良となった場合も迅速に対応していくよう努めていく。
3. 今年度、当園での看取り件数は7件であった。稲毛こひつじ園で穏やかな最期を迎え

るため、介護職員からの情報から看護師の観察力・分析力・考察力が求められる。一人でも多くの入居者様にとって稲毛こひつじ園が終の棲家となるよう次年度も援助いく。

Ⅲ. 地域に根ざしたこひつじ園の継続

1. 地域との関わりは秋祭のみで他の機会に関わりを持つことはできなかった。今年度は地域カフェが浸透し、地域の方々と関わる機会が増えてきている。今後はイベントの機会だけでなく地域カフェでも医務として対応できる部分を検討し更に地域に根ざした貢献ができるよう努める。
2. 家族との信頼関係については、カンファレンスの積極的な参加・日ごろからの挨拶や声掛けを継続して行い、更に関係向上に向けて努めていく。
3. 福祉避難所の準備として、医務での対応の確認、非常用持ち出し袋を準備した。持ち出し袋の定期的な点検。入居者様の緊急連絡簿を毎月1回確認・更新の実施を今後も継続していく。

Ⅳ. 職員の健康増進

1. 今年度は、産業医の診察・処方希望者が増加傾向となった。業務の合間での健康相談・診察・処方を実施することで、体調不良の悪化を未然に防ぐことに繋がる。よって次年度も継続できるよう職員全体へ働きかけていく。

医務 平成30年度 年間集計表

| | 内科 | 施設内 受診 合計 | 外部受診 | 受診 付き添い | オンコール | 救急搬送 | 入院 | カンファレンス | 看取り |
|-----|------|--------------|------|------------|-------|------|----|---------|-----|
| 4月 | 179 | 179 | 66 | 0 | 4 | 2 | 4 | 2 | 0 |
| 5月 | 205 | 205 | 78 | 0 | 2 | 3 | 10 | 0 | 1 |
| 6月 | 170 | 170 | 52 | 0 | 2 | 0 | 7 | 0 | 0 |
| 7月 | 220 | 220 | 64 | 0 | 2 | 2 | 5 | 5 | 0 |
| 8月 | 155 | 155 | 71 | 0 | 5 | 2 | 8 | 2 | 1 |
| 9月 | 167 | 167 | 66 | 0 | 4 | 2 | 5 | 4 | 0 |
| 10月 | 211 | 211 | 85 | 0 | 1 | 1 | 5 | 2 | 1 |
| 11月 | 165 | 165 | 73 | 0 | 3 | 0 | 9 | 1 | 1 |
| 12月 | 145 | 145 | 71 | 0 | 5 | 3 | 3 | 2 | 0 |
| 1月 | 143 | 143 | 68 | 1 | 2 | 3 | 3 | 2 | 2 |
| 2月 | 147 | 147 | 54 | 0 | 2 | 0 | 2 | 4 | 1 |
| 3月 | 132 | 132 | 64 | 0 | 1 | 0 | 8 | 3 | 0 |
| 合計 | 2039 | 2039 | 812 | 1 | 33 | 18 | 69 | 27 | 7 |

死亡退去者

| | 死亡日 | 氏名 | 年齢 | 死因 | 死亡確認場所 | 30年度看取累計 | 看取り総累計 |
|----|-------------|----|-----|-------------|---------------|----------|--------|
| 1 | 平成30年4月13日 | T | 103 | 誤嚥性肺炎・喘息 | 泉中央病院 | | |
| 2 | 平成30年5月15日 | M | 108 | 老衰 | 稲毛こひつじ園 | 1 | 43 |
| 3 | 平成30年5月23日 | S | 88 | (硬膜下血腫) | 千葉中央メディカルセンター | | |
| 4 | 平成30年6月19日 | F | 89 | 誤嚥性肺炎 | 稲毛病院 | | |
| 5 | 平成30年7月20日 | H | 73 | 急性呼吸不全 | 稲毛病院 | | |
| 6 | 平成30年8月5日 | M | 90 | 老衰 | 稲毛こひつじ園 | 2 | 44 |
| 7 | 平成30年8月21日 | K | 94 | 老衰 | 南ヶ丘病院 | | |
| 8 | 平成30年8月29日 | S | 92 | 心不全憎悪 | 稲毛病院 | | |
| 9 | 平成30年10月24日 | M | 96 | 老衰 | 稲毛こひつじ園 | 3 | 45 |
| 10 | 平成30年10月30日 | T | 69 | 心不全憎悪 | 稲毛病院 | | |
| 11 | 平成30年11月2日 | I | 84 | 老衰 | 稲毛こひつじ園 | 4 | 46 |
| 12 | 平成30年12月8日 | I | 101 | 不明 | 稲毛病院 | | |
| 13 | 平成30年12月17日 | I | 83 | 心疾患憎悪 | 千葉北警察 | | |
| 14 | 平成30年12月29日 | N | 97 | 不明 | 稲毛病院 | | |
| 15 | 平成31年1月14日 | S | 90 | 老衰 | 稲毛こひつじ園 | 5 | 47 |
| 16 | 平成31年1月23日 | O | 98 | 老衰 | 稲毛こひつじ園 | 6 | 48 |
| 17 | 平成31年2月4日 | Y | 94 | 不明(口腔内腫瘍あり) | 千葉みなと病院 | | |
| 18 | 平成31年2月17日 | K | 85 | 不明 | 稲毛病院 | | |
| 19 | 平成31年2月19日 | M | 89 | 老衰 | 稲毛こひつじ園 | 7 | 49 |
| 20 | 平成31年3月18日 | S | 96 | 心肺機能低下 | みつわ台総合病院 | | |

長期入院での退所者（施設復帰の不可のため退所）その他

| | 退所日 | 氏名 | 年齢 | 病名 | 状況 |
|----|-------------|----|----|----------|--------------------|
| 1 | 平成30年6月13日 | S | 86 | 誤嚥性肺炎 | 退院困難にて退所となる。 |
| 2 | 平成30年6月14日 | M | 93 | 左大腿骨頸部骨折 | 退院困難にて退所となる。 |
| 3 | 平成30年10月13日 | S | 95 | 誤嚥性肺炎 | 病院での看取り希望となり退所となる。 |
| 4 | 平成30年10月27日 | K | 94 | 誤嚥性肺炎 | 病院での看取り希望となり退所となる。 |
| 5 | 平成30年12月3日 | F | 79 | 肺炎 | 帰園困難にて退所となる。 |
| 6 | 平成30年12月17日 | A | 94 | 脳出血 | 退院困難にて退所となる。 |
| 7 | 平成31年2月21日 | S | 83 | 肝硬変憎悪 | 帰園困難にて退所となる。 |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |

| 入院先病院 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 稲毛病院 | 2 | 6 | 3 | 1 | 6 | 4 | 3 | 7 | 2 | 1 | | 3 | 38 |
| 高洲訪問クリニック | | | 1 | | | 1 | | | | | | 1 | 3 |
| 四街道徳洲会病院 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| みつわ台総合病院 | | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | | 2 | 1 | 7 |
| 千葉メディカルセンター | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 |
| 井上記念病院 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 幸有会記念病院 | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 千葉中央メディカルセンター | 1 | | | | | | | | | | | 1 | 2 |
| 泉中央病院 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 行徳総合病院 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 千葉中央外科内科 | | 1 | | 1 | | | 1 | | | | | | 3 |
| 南ヶ丘病院 | | 1 | 1 | | 2 | | | 1 | | | | 1 | 6 |
| 青葉病院 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 中村古峽記念病院 | | | | 1 | | | | | | | | 1 | 2 |
| 斉藤芳災病院 | | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| 千葉みなと病院 | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| 千葉脳神経外科病院 | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |

3 - 3 生活相談員部門

【 目 標 】

I.特養稼働率98%以上の達成

II.ユニットケアの推進

III.地域との連携を深め、稲毛こひつじ園がより地域に根差した施設となれるよう努める

IV.平成30年度介護保険法改定に対応した各種加算の取得

【 施策、評価 】

I.職員不足により1ユニット運営できず平成30年度の平均稼働率は90.0%となった。
ユニット再開に備え、入居者の獲得を進めていく。

II.ユニットケアの理解を深めるためユニットケアセンター主催の研修に参加。
24時間シートの作成方法、ユニット設えの理解、ユニット費の運用について学び、
当園での導入を実施した。

III.地域福祉活動部門は地域カフェ、子ども食堂、買い物支援を行っているが、連携して
地域住民向けのセミナーを開催することはできなかった。
今後はペコリーノとの連携を図り、職員採用につなげられるように受講者向けの
施設見学、セミナーの開催などで協力していく。

IV.新設の介護保険制度の加算についてはいずれも取得には至らず。

原因として、2回の施設長交代に伴う指示命令系統の混乱、職員の退職が考えられる。

新施設長のもと、所得可能な加算については、書類の整備、職員間の役割を明確にして周知するとともに、千葉市の担当者ともすり合わせを行い、加算の利用料返還などの不備がないようにしていく。

3 - 4 介護支援専門員部門

施設サービス課介護支援専門員部門は社会福祉法人初穂会の理念、基本方針、中長期計画・重点目標を達成するために目標を以下の通り定める。

【 目標 】

- I. 情報収集による生活課題の明確化
- II. 24時間シートをユニット職員が作成できるよう指導し、施設介護計画書と連動した運用を行う
- III. 看取り対象者へのケアプラン作成とカンファレンスの実施により、最期まで安心して当園での生活が送れるよう支援する

【 施策、評価 】

- I. 各部署との連携により24時間シートをもとにした施設サービス計画を立案。
介護、栄養、医務、機能訓練の各担当者から、専門職としての支援内容を記載してもらい、ケア内容を集約した施設サービス計画書とする、という目標を達成できた。担当者会議の開催は、介護保険証更新時は全員分実施した。
ご家族の予定に合わせて土日が良いが、職員は土日が人手不足になるためご家族参加による担当者会議は実施できないケースがほとんどであった。
- II. 24時間シートの運用を確実にを行い、全職員に浸透させることで、入居者の意向に沿ったケアができるよう努めた。
アセスメントシートの作成及び24時間シートを作成することで、入居者の思いを聞き取り、ご本人の出来ることと、サポートの必要なことを把握することができた。
- III. 看取り対象者への支援については、ご家族への意向確認、看取りケアプランの作成。
ご家族参加によるカンファレンスの実施という一連の流れを遂行できた。
医療機関入院中に食事摂取不可となり、退院前から看取りの意向を確認。
退院時にカンファレンスを行い、1カ月以内に亡くなる入居者が2名いた。
入所時の意向確認では病院よりも最期は施設でとご希望されるご家族が多いため、今後も同様のケースが増えることは予想される。
医務を中心に各部署との情報交換、連携を図り安心して当園での生活が送れるよう支援していく。

ケアプランの立案数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 通常 | 16 | 15 | 7 | 16 | 14 | 11 | 23 | 16 | 8 | 16 | 16 | 9 | 167 |
| 看取 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 8 |

3-5 栄養部門

I. 目標

- 1、日々の生活において楽しみにしていただける食事と折々の季節を感じることでできる食事内容の提供
- 2、ご利用者様・ご入居者様の身体状況に対応した食事内容と食形態の提供
- 3、入居者様の生活リズムに沿った食事提供の実現に向けた準備
- 4、入居者様が最期まで食事を摂ることができ、食べ物を味わう楽しみが継続できるように経口維持支援体制の構築・強化を行う

II. 具体的対策

1、提供する食事内容について

- 1) 各部署から意見が出せる機会の設定

⇒毎月1回、給食運営会議を開催した。業務の都合にて、構成メンバーが全員揃うことが難しかったが、事前に会議内での検討事項を提示し、各フロア・部署で事前に意見をまとめてもらうように依頼を行った。

各部署・委託会社各々の立場より、食事提供に関する改善案を提起し、話し合いを行うことで、ご利用者・ご入居者お一人お一人の状態やニーズに沿える食事提供を目指した。

- 2) 選択する楽しさを感じていただける機会の設定

⇒イベント食・統一献立提供日を除き、デイサービス・ショートステイでは昼食時に2種類の主菜からご利用者様自ら好きな主菜を選んでいただく『主菜セレクト』を毎日実施した。

また、平成30年度よりショートステイについては前日に見本写真を提示し、写真を見て翌日の昼食の主菜を選んでいただくようにした。

- 3) 月2回イベント食を設定し、旬の食材を使用したメニューの提供

⇒例年、1月は元日昼食時の1回のみ実施であったが、今年度はデイサービスのご利用者様にも毎月イベント食が提供できるよう、月2回実施した。

イベント食の内容としては、季節行事に沿った献立(お節料理・クリスマス献立等)や折々の季節で旬である食材(筍・鱧・梨・西瓜等)を使用した献立内容の提供に努めた。

また、ご利用者様・入居者様より希望の多い【刺身】【ちらし寿司】等をイベント食に取り入れた。

4) 常食化の推進

⇒原則、月2回実施のイベント食提供時にはソフト食提供のご利用者様・ご入居者様を除き、『米飯・常菜形』での提供を行い、目でも食事を楽しんでいただける機会を設けた。

ご利用者・ご入居者様の状態に沿った対応がユニットでは難しいとの意見が各ユニットより挙がった為、12月～2月の期間は試験的に、普段と同じ食形態での提供を行ってみたが、今まで通り、目でも楽しんでいただく事を目的に、イベント食提供時は原則『米飯・常菜形』での提供を継続することに決定した。

5) 年1回以上、ご入居者様を対象に嗜好調査の実施

⇒今年度は、2月に嗜好調査を実施し、3月の給食運営会議にて報告を行った。
(※嗜好調査の結果報告については、添付資料参照)

6) おやつ内容の充実

⇒施設おやつに使用する商品の取引先を、複数持つことで、バリエーションのあるおやつの提供に努めた。

また、季節ごとの菓子(桜風味の菓子・栗風味の菓子等)を提供し、季節を感じていただけるように努めた。

2、身体状況に応じた食事内容と食形態の提供

1) 『日本人の食事摂取基準(2015年版)』に基づき、定期的に栄養基準・食種の見直しを図る。

⇒委託会社の献立内容との調整とご利用者様・ご入居者様の状態を考慮し、主食量表の見直し・訂正を行った。それに伴い、新に『常菜全粥食』の食種を設けた。

2) ミールラウンドを毎日行い、ご利用者様・ご入居者様の身体状況・食事摂取状況の把握に努める。

⇒ご利用者様・ご入居者様とのコミュニケーションを大切にし、出来る限り個々のニーズや嗜好を汲んだ対応を行い、食事を楽しみとっていただけるように努めた。

また、身体状況の変化に合わせて食事内容を見直し、安心して食事が摂れるよう、対応を行った。

3) ご入居者様に対し、月1回以上のスクリーニング・アセスメントを行い、リス

クに応じた期間でのモニタリングを実施する。

⇒健康診断結果や体重測定・食事摂取状況、日々のご様子により、ご入居者様の状態把握に努めた。

- 4) ご入居者様の栄養状態・摂食嚥下状態の把握に努め、それぞれの状態に沿った栄養ケア計画書の見直し・作成を行う。

⇒ご入居者様やユニット職員との会話の中で小さな変化にも気を配ることにより、意向や身体状態に合わせた栄養ケア計画の見直し・作成を行った。

- 5) 他部署との連携を図り、低栄養状態・低栄養状態になるリスクの高いご入居者様に対し、早急な対応策の検討を行い、状態の悪化防止・改善に繋がる栄養マネジメントに努める。

⇒低栄養になるリスクの高いご入居者様に対し、早期での栄養介入をすることで、状態悪化を防止するとともに、改善を目指した。

食事量の不安定なご入居者様に対しては、食事内容の変更や嗜好品・栄養補助食品の提案を行い、少しでも栄養改善に繋がるようなマネジメントに努めた。

- 6) 状況確認会議・褥瘡対策委員会にて、他部署との情報共有を行い、褥瘡の改善・予防に取り組んでいく。

⇒他部署との情報共有により連携を図り、低栄養や褥瘡の改善・予防に努めた。また、褥瘡予防に関する施設内研修の際には、栄養面のサポートについて職員への伝達を行った。

3、各部署・ユニットケア推進室と連携し、厨房盛り付けからユニット盛り付けへの移行に向けた準備を行う。

⇒前年度は3-1のみで行っていたユニットでの盛り付けを、6/11より全ユニットで昼食から開始し、9月より完全移行した。職員によって理解度等の差はあるが、概ね慣れてきた様子はみられた。

次年度は、職員の人員不足により一時ユニット盛り付けは中止となる為、再開の際は、改めてユニット盛り付けに関する意識付けを行っていく必要がある。

4、嘱託医及び訪問歯科医師の指示・助言のもと、多職種で連携し、ご入居者様が最期を迎える時まで食べ物を味わう楽しみが継続できるよう経口維持支援体制の構築・強化を行う。

⇒対象となるご入居者様の抽出を行い、他職種と連携し、ご入居者様が最期の時ま

で自らの口で味わう楽しみを継続出来るよう、嘱託医・訪問歯科の医師の指導のもと、月1回以上の食事観察・会議を実施し、多職種が各々の立場で意見を出し合うことで、ご入居者様お一人お一人に適した経口維持支援の検討を行った。(平成31年3月時点 経口維持加算Ⅰ：11名算定)

III. 平成30年度介護保険法改定への対応

1、低栄養リスク改善加算

⇒対象となるご入居者様の抽出を行うが、算定には至らず。

2、栄養スクリーニング加算

⇒デイサービス相談員との連携により、算定に向けた準備を行った。

イベント食報告

| 月 | 日 | 献立名 | イベント食内容 |
|---|----|-------|---|
| 4 | 14 | イベント食 | 松花堂弁当(貝柱入生姜御飯・桜海老入クリームコロツケ・白玉ぜんざい) |
| | 26 | イベント食 | パンメニュー |
| 5 | 5 | イベント食 | 端午の節句(竹の子御飯・天ぷら・抹茶ババロア) |
| | 26 | イベント食 | 混ぜ寿司・キスの変わり揚げ・みつ豆フルーツ) |
| 6 | 9 | イベント食 | 入梅献立(ざる蕎麦・天麩羅・カブの柚子味噌あんかけ・紫陽花ゼリー) |
| | 23 | イベント食 | 山菜御飯・めだいの西京焼き・杏仁フルーツ |
| 7 | 7 | イベント食 | 七夕(稲荷寿司・ミニそうめん・天ぷら・みつ豆フルーツ) |
| | 20 | イベント食 | 土用の丑の日(鰻の蒲焼またはカツ煮) |
| 8 | 11 | イベント食 | 冷やし中華・餃子・杏仁フルーツ |
| | 25 | イベント食 | 混ぜ寿司・天ぷら・茶碗蒸し |
| 9 | 8 | イベント食 | うなぎちらし・炊き合わせ・春菊のおかか和え・羊かん |
| | 17 | イベント食 | 敬老の日祝い膳(赤飯・紅白なます・デラウェア・梨) ※施設より紅白かもめの玉子を提供 |

| | | | |
|----|----|----------|----------------------------------|
| 10 | 8 | イベント食 | 栗コロケ・茄子の味噌炒め・厚焼き玉子 |
| | 27 | イベント食 | 炊込み御飯・赤魚の西京焼き・和梨ゼリー |
| | 29 | 行事 | 秋刀魚の塩焼き ※正面玄関前にて炭火焼きを実施 |
| 11 | 10 | イベント食 | ねぎとろ丼・かき揚げ・茄子の煮物 |
| | 24 | イベント食 | マグロの山かけ・筑前煮・みつ豆フルーツ |
| 12 | 8 | イベント食 | 混ぜ寿司・天ぷら・茶碗蒸し・みかん |
| | 24 | 行事 | クリスマスケーキ |
| | 25 | イベント食 | クリスマス（チキンライス・星型ハンバーグ・コロケ・生ハムサラダ） |
| 1 | 1 | イベント食 | 祝い膳(鮪の刺身・カニ爪フライ・きんとん・数の子・黒豆) |
| | 〃 | おやつ | 松竹梅饅頭 |
| | 4 | おやつ(D S) | 松竹梅饅頭 |
| | 9 | おやつ | 絵馬饅頭 ※施設行事：新年祝い太鼓 |
| | 7 | 朝食 | 七草粥 |
| | 11 | おやつ | 鏡開き(お汁粉) |
| 2 | 2 | イベント食 | 節分(恵方巻・玉子巻寿司・いわし梅しそフライ・菜の花の和え物) |
| | 20 | イベント食 | サーモンいくら丼・天ぷら・小松菜の胡桃和え |
| 3 | 2 | イベント食 | ひな祭り(ちらし寿司・小柱かき揚げ・茶碗蒸し) |
| | 3 | おやつ | 桜餅・甘酒 |
| | 20 | イベント食 | 天ぷら盛合わせ・揚げ茄子のあんかけ・白菜とわかめの和え物 |

※イベント食は、昼食に実施

栄養部門

1 介護老人福祉施設

(単位：食)

| 月 | 特養 | | | | ショート | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|------|------|------|------|
| | 朝 | 昼 | おやつ | 夕 | 朝 | 昼 | おやつ | 夕 |
| 4月 | 2481 | 2454 | 2297 | 2482 | 486 | 535 | 491 | 485 |
| 5月 | 2460 | 2440 | 2209 | 2461 | 479 | 522 | 457 | 480 |
| 6月 | 2389 | 2377 | 2222 | 2393 | 472 | 519 | 469 | 470 |
| 7月 | 2451 | 2431 | 2163 | 2452 | 465 | 513 | 437 | 469 |
| 8月 | 2451 | 2430 | 2116 | 2453 | 461 | 512 | 448 | 458 |
| 9月 | 2395 | 3279 | 2016 | 2402 | 404 | 459 | 442 | 408 |
| 10月 | 2440 | 2294 | 2173 | 2436 | 464 | 489 | 484 | 462 |
| 11月 | 2342 | 2327 | 2103 | 2340 | 427 | 469 | 457 | 434 |
| 12月 | 2388 | 2365 | 2039 | 2382 | 457 | 494 | 455 | 459 |
| 1月 | 2303 | 2281 | 2000 | 2295 | 487 | 519 | 459 | 485 |
| 2月 | 2070 | 2047 | 1773 | 2066 | 442 | 474 | 426 | 441 |
| 3月 | 2290 | 2267 | 2009 | 2291 | 469 | 515 | 492 | 473 |
| 総数 | 28460 | 28992 | 25120 | 28453 | 5513 | 6020 | 5517 | 5524 |
| 平均 | 2372 | 2416 | 2093 | 2371 | 459 | 502 | 460 | 460 |

2 通所介護 (単位：食)

| 月 | 昼 | おやつ |
|-----|-------|-------|
| 4月 | 567 | 554 |
| 5月 | 629 | 611 |
| 6月 | 572 | 545 |
| 7月 | 555 | 555 |
| 8月 | 556 | 538 |
| 9月 | 519 | 519 |
| 10月 | 510 | 510 |
| 11月 | 509 | 484 |
| 12月 | 492 | 493 |
| 1月 | 469 | 469 |
| 2月 | 493 | 473 |
| 3月 | 557 | |
| 総数 | 6,428 | 5,751 |
| 平均 | 536 | 523 |

3 職員 (単位：食)

| 月 | 朝 | 昼 | 夕 |
|-----|-----|-------|-----|
| 4月 | 30 | 679 | 30 |
| 5月 | 31 | 723 | 31 |
| 6月 | 30 | 624 | 30 |
| 7月 | 31 | 507 | 31 |
| 8月 | 31 | 362 | 31 |
| 9月 | 30 | 332 | 30 |
| 10月 | 31 | 383 | 31 |
| 11月 | 30 | 244 | 30 |
| 12月 | 31 | 187 | 31 |
| 1月 | 31 | 170 | 31 |
| 2月 | 28 | 151 | 28 |
| 3月 | 31 | 161 | 31 |
| 総数 | 365 | 4,523 | 365 |
| 平均 | 30 | 377 | 30 |

4 低栄養リスク判定

(単位：名)

| 月 | 特養 | | | 総数 |
|-----|------|------|------|-----|
| | 低リスク | 中リスク | 高リスク | |
| 4月 | 14 | 62 | 11 | 87 |
| 5月 | 13 | 58 | 11 | 82 |
| 6月 | 10 | 63 | 10 | 83 |
| 7月 | 18 | 57 | 11 | 86 |
| 8月 | 13 | 61 | 8 | 82 |
| 9月 | 12 | 61 | 11 | 84 |
| 10月 | 16 | 54 | 12 | 82 |
| 11月 | 18 | 51 | 10 | 79 |
| 12月 | 19 | 52 | 9 | 80 |
| 1月 | 20 | 49 | 8 | 77 |
| 2月 | 22 | 49 | 5 | 76 |
| 3月 | 24 | 47 | 8 | 79 |
| 総数 | 199 | 664 | 114 | 977 |
| 平均 | 17 | 55 | 10 | 81 |

※入院中除く

5 経口維持加算

(単位：名)

| 月 | 特養 | |
|-----|-----|------|
| | I | I・II |
| 4月 | 17 | 0 |
| 5月 | 14 | 0 |
| 6月 | 14 | 0 |
| 7月 | 16 | 0 |
| 8月 | 13 | 0 |
| 9月 | 13 | 0 |
| 10月 | 11 | 0 |
| 11月 | 15 | 0 |
| 12月 | 15 | 0 |
| 1月 | 11 | 0 |
| 2月 | 12 | 0 |
| 3月 | 11 | 0 |
| 総数 | 162 | 0 |
| 平均 | 14 | 0 |

備蓄品リスト

| 品名 | 単位 | 期限 |
|-----------------|----------------|------------|
| 炊き出し白米セット | 5 ケース (50 食分) | 2022/08/31 |
| | 3 ケース (50 食分) | 2022/09/30 |
| 白粥 | 3 ケース (50 食分) | 2021/04/30 |
| | 3 ケース (50 食分) | 2022/04/30 |
| | 1 ケース (50 食分) | 2022/12/31 |
| | 3 ケース (1食×50袋) | 2022/08/31 |
| ●ミニふりかけ (しそ) | 50個×2袋 | 2019/11/26 |
| ●ミニふりかけ (のりたま) | 50個×2袋 | 2019/11/29 |
| ●ミニふりかけ (カツオ) | 50個×2袋 | 2019/11/27 |
| ●みつ豆フルーツ | 1号缶×2缶 | 2020/05/30 |
| ●ライトツナフレーク | 1kg×4P | 2020/05/27 |
| ●かつおフレーク味付 | 450g×5P | 2020/05/01 |
| ●チキンそぼろ味付 | 900g×5P | 2020/06/24 |
| ●さんま蒲焼き | 固形1500g×4缶 | 2020/08/04 |
| ●さば味噌煮 | 固形1400g×2缶 | 2020/08/24 |
| | 固形1400g×2缶 | 2021/08/20 |
| ●みかん缶 | 1号缶×1缶 | 2019/11/01 |
| | 1号缶×2缶 | 2019/12/01 |
| ●フルーツカクテル缶 | 1号缶×3缶 | 2020/02/22 |
| ●焼きとり (たれ) | 65g×24缶 3箱 | 2020/08/17 |
| | 65g×24缶 2箱 | 2021/08/27 |
| ●焼きとり (塩) | 65g×100缶 | 2020/08/03 |
| 水 | 2L×6本入り×10ケース | 2022/06/26 |
| ●野菜1日これ一本 | 190ml×30本×7箱 | 2020/01/04 |
| ●野菜生活100オリジナル | 190ml×30本×4箱 | 2020/07/18 |
| 濃厚流動食 (400kcal) | 3個 | 随時入れ替え |
| 濃厚流動食 (300kcal) | 6個 | 〃 |

※経管栄養対象1名のみ (1日400kcalを1個、300kcalを2個使用。非常食として3日間分を常に確保)
 保管場所 ⇒ ①食品庫内・非常食専用ラック (栄養室) ②防災倉庫

●⇒日清医療食品用意分

※主食 100食×3日分 主菜等 400食×3日分 水 100食×1日分

3-6 短期入所生活部門

【 目 標 】

- I. 「自らが利用したい。家族を利用させたい。」と提供いただけるサービス提供を行う。
- II. 多職種が連携して利用者様の支援を行う環境を整える
- III. 稼働率95%以上の達成
- IV. 平成30年度介護保険法改正に伴う対応を行う

【 施策・評価 】

- I. 個々のニーズに合わせたサービスを提供できるよう目標を掲げていたが、季節に応じた行事の企画・実施を毎月行うことは出来たが、個々のニーズに合わせたサービスに関しては、ユニット移動による職員の体制変更やマンパワー不足の影響もあり、日々の業務を回すことで精一杯となり、中々個々のニーズに応じたサービスの実施が行えなかった。
特に個別機能訓練に関しては、希望するご利用者様はいるが、実際機能訓練士が常駐している訳ではなく、ご利用者様がご利用する日に機能訓練士が出勤していない為、個別機能訓練が行えず、依頼があってもお断りをしなければならなかったり、行えていない実情がある。今後も利用を希望するご利用者様がいても現状、積極的に個別機能訓練の実施を進めることが出来ない。「個別機能訓練を実施することができる」と施設として加算も算定し、希望するご利用者様がいる場合、臨機応変に対応できるようにしていく。
- II. 実際に施設内では他部署と施設外ではご本人・ご家族・担当ケアマネージャーや各事業所・医療機関やインフォーマルな社会資源も含めて密な情報収集や情報の共有化を図ることが出来るよう努めており、受け入れに対し対応が出来ている。その為、緊急ショート受け入れの対応件数も前年度までに比べ増えてきている。
しかしながら、ご利用者様の多様性の部分で各部署のマンパワーの問題や意見の食い違いなどで利用に繋がられない現状もある。この現状を解決する為にも各部署とのサービスの在り方についての共通理解をし、サービスの提供に繋がられるよう話し合いを行っていく。

- Ⅲ. 前年度に比べ、緊急ショートステイへの受け入れを柔軟に行うようにし、臨機応変な対応を行うようになったことで、いくつかの事業所から「いざという時には対応して貰える」と言って貰えるようになってきている。また、その噂が他事業所にも流れ、今迄付き合いのなかった事業所からの依頼も確実に増えてきており、稼働率も上がってきているが、今年度は目標に掲げていた95%に到達できず94%となってしまった。

現在実施している空室情報に関してはホームページへの掲載を開始し、都度更新するようになってから、ホームページの空室情報をみての問い合わせは確実に増えてきている。また営業活動も毎月行うようにし、各事業所のケアマネージャーとの信頼関係を構築するようにすることで確実に新規利用依頼に繋がってきている。今後も更に信頼関係が築けるよう柔軟な対応や営業活動などを継続し『選ばれる事業所』となり稼働率の目標達成を目指していく。

- Ⅳ. 介護保険法改正に伴いサービスの向上・加算の取得を目標に立てていたが実際、加算に関してはマンパワー不足に伴い、事業計画に掲げた3項目（看護体制加算Ⅲ・認知症専門ケア加算・口腔衛生管理体制加算）の取得には至らなかった。

特に看護体制加算Ⅲに関しては7月までは取得できており、実際に加算に反映されていたが、8月以降は看護職員の不足に伴い、加算取得はできず現在に至っている。他の加算項目に関しても、取得する為の該当職員がいない事もあり取得には至らなかった。

<送迎エリア>

稲毛区 中央区 若葉区 花見川区 美浜区 緑区 の千葉市全域
四街道市

<送迎実施地域>

| 区 | 町 | | | | | |
|------|-------------------|-------------------|-------------------|-----------------|-----------|------------|
| 稲毛区 | 長沼町 作草部 稲毛町 | 小仲台 萩台町 千草台 | 園生町 柏台 宮野木町 | 天台 轟町 稲毛東 | 穴川 黒砂 | 小中台 弥生町 |
| 若葉区 | 若松町 東寺山町 | 若松台 加曽利町 | 貝塚町 殿台町 | 都賀の台 桜木町 | 小倉台 都賀 | 源町 |
| 中央区 | 中央 | 春日 | 東千葉 | 登戸 | 弁天 | 汐見ヶ丘 |
| 花見川区 | 畑町 | 作新台 | 朝日が丘 | さつきが丘 | | |
| 美浜区 | 真砂 高洲 | | | | | |
| 緑区 | おゆみ野南 | | | | | |
| その他 | 四街道市 (つくし座) | | | | | |

<要介護度別利用状況>

()内は平成29年度

| | 男 | 女 | 計 |
|-------|--------|---------|---------|
| 要支援1 | | | |
| 要支援2 | | | |
| 要介護度1 | 1 (1) | 6 (1) | 7 (2) |
| 要介護度2 | 2 (3) | 10 (8) | 12 (11) |
| 要介護度3 | 2 (5) | 7 (11) | 9 (16) |
| 要介護度4 | 2 (5) | 4 (5) | 6 (10) |
| 要介護度5 | 1 (0) | 4 (3) | 5 (3) |
| 計 | 8 (14) | 31 (28) | 39 (42) |

<新規契約数>

() 内は平成29年度

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | |
|---|----------|----------|----------|----------|----------|----------|------------|
| 男 | 0 (1) | 2 (0) | 3 (0) | 3 (2) | 1 (0) | 1 (1) | |
| 女 | 4 (3) | 2 (0) | 0 (1) | 6 (1) | 3 (1) | 4 (1) | |
| 計 | 4 (4) | 4 (0) | 3 (1) | 9 (3) | 4 (1) | 5 (2) | |
| | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 年間計 |
| 男 | 3 (3) | 3 (1) | 3 (3) | 1 (0) | 1 (1) | 2 (1) | 23 (13) |
| 女 | 5 (1) | 5 (2) | 0 (0) | 1 (1) | 3 (2) | 3 (2) | 36 (15) |
| 計 | 8 (4) | 8 (3) | 3 (3) | 2 (1) | 4 (3) | 5 (3) | 59 (28) |

<行事>

- 4月 お花見 (スポーツセンター)・いちご狩り
- 5月 おやつ作り (おはぎ)
- 6月 外出 (川村記念美術館)・縁日
- 7月 おやつ作り (水羊羹)
- 8月 花火大会
- 9月 敬老会
- 10月 秋祭り、おやつ作り (水羊羹)
- 11月 昼食作り (焼きそば・餃子)
- 12月 クリスマス会、餅つき
- 1月 初詣 (千葉神社)、新年会
- 2月 節分、おやつ作り (たこ焼き)
- 3月 おやつ作り (お好み焼き)

3-7 介護予防通所介護・通所介護部門

【 目 標 】

1. 他施設とのサービスの差別化を図る
2. 職員の資質向上
3. 近隣地域と共に築くデイサービス

【 事業概要 】

営 業 日 … 月曜日～土曜日(祭日含む) 1月1日～3日は休業
サービス提供時間 … 9:30～16:30
利用定員 … 30名

【サービス内容】

送迎サービス・食事の提供・入浴・レクリエーション・生活相談
健康チェック・その他、必要な介護・個別機能訓練

【ご利用者の状況】(3/31現在)

(1)年齢構成

| 年 齢 | 男 | 女 | 計 |
|-------|------|------|------|
| 50～59 | 1 | 0 | 1 |
| 60～69 | 2 | 0 | 2 |
| 70～79 | 4 | 6 | 10 |
| 80～89 | 6 | 26 | 32 |
| 90～ | 1 | 10 | 11 |
| 合 計 | 14 | 42 | 56 |
| 最高年齢 | 90 | 95 | |
| 最低年齢 | 56 | 74 | |
| 平均年齢 | 78.2 | 85.0 | 83.1 |

(2)介護度内訳(3/31現在) … 平均介護度:2.3

| 介護区分 | 支援1 | 支援2 | 介護1 | 介護2 | 介護3 | 介護4 | 介護5 | 計 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 人 数 | 0 | 2 | 15 | 17 | 13 | 8 | 1 | 56 |

(3)新規利用受入れ状況

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 人数 | 4 | 2 | 2 | 0 | 0 | 3 | 1 | 4 | 3 | 3 | 1 | 0 | 23 |

(4)終了理由

| 理由 | 入所 | 転居 | 入院 | 死亡 | 療養 | SS中心 | 他DS | 合計 |
|----|----|----|----|----|----|------|-----|----|
| 人数 | 11 | 0 | 6 | 2 | 4 | 5 | 1 | 29 |

【ボランティアの受入れ状況】

(1)新規受入れ状況

| 開始月 | 団体名：内容 |
|-----|-----------|
| 7月 | フラダンスボラ |
| 3月 | フラダンスグループ |
| | |

(2)定期受入れ状況

| 受入日 | 団体名：内容 |
|----------|----------|
| 第1金曜 | ゆる体操 |
| 第4金曜日 | 音楽ボランティア |
| 第3金曜日 | ゴムバンド体操 |
| 第3水曜日 | ハーモニカ演奏 |
| 毎週火曜日 | 太極拳 |
| 25日以降相談 | さくら会 |
| 奇数月第1水曜日 | 萩の会 |
| 第2水曜日 | 稲毛のきみまろ |
| 不定期 | 書道の日 |

【年間行事】

| | 内 容 |
|-----|-------------------------------------|
| 4月 | お花見・制作レク（お守り作り）・春の湯 |
| 5月 | 菖蒲湯・落語の会・クラフト作り |
| 6月 | 縁日・制作レク（七夕飾り作り・お守り作り）・ギター演奏 |
| 7月 | フラダンス |
| 8月 | 食レク（かき氷）・ギター演奏 |
| 9月 | 制作レク（お守り作り）・落語の会・敬老会・オカリナ演奏 |
| 10月 | 運動会・ハロウィンパーティー・秋祭り |
| 11月 | 焼き芋づくり・ギターアンサンブル |
| 12月 | クリスマス会・紅白歌合戦・餅つき・ゆず湯 |
| 1月 | 書道（書初め）・初詣&外食ツアー・ギター演奏 |
| 2月 | 豆まき・食レク（チョコレートフォンデュ）・雛人形作り・バターゴルフ大会 |
| 3月 | 食レク（ぼた餅作り）・外出レク（お花見ドライブ）・避難訓練・フラダンス |
| | 食 事：主菜セレクト(毎日)・行事料理 おやつ：ドリンクセレクト |

【研修】

| | 内 容 |
|--------------------|----------------------------------|
| 5月 | ※移乗介助について |
| 6月 | ※接遇マナー |
| 7月 | ・レクリエーション介護士2級 ※送迎中の事故対応マニュアル |
| 8月 | ※緊急対応マニュアル |
| 10月 | ※記録について |
| 11月 | ・短時間救命講習 |
| ※第2火曜日の定例会議に合わせて開催 | |

【総括】

平成 30 年度の実績は、1 日平均 21.2 名、平均稼働率は、70.6%であった。

年度初めは新規利用が続いたが、8 月頃より利用のキャンセルや休止者が増加し、稼働率が低下した。

目標の一環であった“他施設とのサービスの差別化を図る”ことについての取組が足りなかった。満足度の高いサービスを提供するために新たな取り組みを検討し、選んでいただける事業所になれるように努めたい。

来年度は、職員の資格取得支援やスクリーニング加算の対象者増加や、次年度に向けて新たな加算の算定が出来るように体制を整えていきたい。

そして、ご利用者様が住み慣れた地域で生活が継続できるよう近隣地域と連携し、ご利用者の思いを尊重したより質の高い介護サービスを提供していきたい。

3-8 居宅介護支援部門

1. 居宅介護支援事業

(1) 新規受け入れ

- ・ 千葉市あんしんケアセンター、病院及び利用者ご家族から直接の依頼あり。
- ・ 定期的にあんしんケアセンターへの訪問を実施。
- ・ 入院された利用者様の病院へ地域連携シート持参し、地域連携室 S MW と話をするよう心掛けています。

H31 年 3 月現在 契約 75 件 (要介護 69 件・要支援 6 件)

| 千葉市あんしんケアセンタ ー | 病院 | ご家族 | 他居宅支援事業所より |
|-------------------|-----|------|------------|
| 38 件 | 5 件 | 25 件 | 7 件 |

(管理者：要介護 34 件・要支援 4 件/専任：要介護 35 件・要支援 2 件)

H31 年 3 月 「実績」 要介護 66 件 要支援 6 件 稼働率 88.4%

(管理者：要介護 31 件・要支援 4 件/専任：要介護 35 件・要支援 2 件)

※契約しているが、入院やサービス利用休止される方がおり、実績に反映できていない。

体調の変化により区分変更される利用者様がいる為その都度対応している。

実績にならないが、利用者様やご家族等の相談や対応を行っている。

- (2) 法令遵守し、安定した運営をすることを心掛けているが、業務点検や自主点検を定期的に行うことができていない。介護支援専門員 2 名で声を掛け合いながら確認していくよう注意していく。

2. 要介護認定調査委託事業

(1) 日程調整等できず千葉市の現任研修に参加できていない。今後も機会があれば参加していく。

(2) 千葉市各区、その他の自治体からの委託依頼を積極的に受けている。

H31 年 3 月現在 10 件「千葉市稲毛区 1 件/市原市 1 件/四街道市 3 件/東京都新宿区 2 件/東京都荒川区 2 件/東京都東村山市 1 件」(月に 1~2 件依頼受けている)

3. 事務処理を円滑に行うため業務の分散化を図る。効率よく業務を遂行できるよう努める。

人員配置ができず。事務員の手が空いているときに契約書等の書類製本を手伝ってもらっている。

ファイルや書類の整理できていない。入力業務の為に残業すること多い。

今後も兼任の事務員を配置していただけるようかけあっていく。

4. 介護保険改正にあたり情報、連携の見直しを行う

(1) 医療と介護の連携強化の為 入院時に病院へ情報提供を持参または FAX で行う。できるだけ、入院から 3 日以内に行う。病院担当者の迷惑にならないように連絡してから行うようにしている。医療機関等におけるカンファレンスに参加し、必要の情報を得られるよう努力している。

(2) 末期の悪性腫瘍の利用者に対するケアマネジメントは行っていない。

(3) 介護保険改正にあたり、質の高いケアマネジメントを推進するために主任ケアマネジャーを管理者に登用することを促進されているが、現在 主任ケアマネジャーはいない。今後も主任ケアマネジャーも登用を進めていく必要あり。利用者の意思に基づいたサービス事業所の紹介を行っている。

5. 職員の資質向上のための研修（関係機関との連携・地域とのつながり）

自身の日程調整を行い、できる限り研修や集まりに参加し、医療機関・あんしんケアセンター・サービス事業所・地域との連携を作り、深めていく努力をしていきます。

| | 研修内容 |
|------|--|
| 4 月 | 第 1 回天台・園生圏域内ケアマネ連絡会 |
| 5 月 | 第 1 回稲毛区ケアマネ研修会 |
| 6 月 | 第 1 回萩台町地区地域ケア会議/第 1 回稲毛区事例検討会/医療・介護の多職種を考える稲毛研究会/第 2 回天台・園生圏域内ケアマネ連絡会/第 1 回稲毛区多職種連携会議 |
| 7 月 | 稲毛・美浜合同ケアマネ研修会/第 1 回稲毛区内地区ケア研修会/あんしんケアセンター天台圏域内民生委員と介護支援専門員の交流会 |
| 8 月 | 第 3 回天台・園生圏域内ケアマネ連絡会 |
| 9 月 | これからの認知症診療を考える会/千葉市介護支援専門員協議会・千葉市薬剤師会合同研修会/認知症 SOS 対応声掛け訓練（ともしび自治会） |
| 10 月 | 第 4 回天台・園生圏域内ケアマネ連絡会/千葉脳神経外科病院地域連携勉強会 |
| 11 月 | 第 2 回稲毛区ケアマネ連絡会 |
| 12 月 | 介護支援専門員研修会・千葉/第 5 回天台・園生圏域内ケアマネ連絡会/第 2 回稲毛区事例検討会 |
| 1 月 | 研修・多職種交流会/ケアマネジャーとして虐待事例への対応・検討会 |
| 2 月 | 稲毛区多職種連携会議/第 6 回天台・園生圏域内ケアマネ連絡会/第 3 回稲毛区ケアマネ連絡会/第 2 回萩台地区地域ケア会議/集団指導 |
| 3 月 | 稲毛区事例検討会 |

3-9 ボランティア部門

【 目 標 】

社会福祉法人初穂会の理念、基本方針、中長期計画・重点目標を達成するために目標を以下の通り定める。

1. 各種演芸ボランティアを受け入れ、利用者の生活に刺激と楽しみを感じていただく。
2. 個人やグループのボランティアを受け入れ、地域住民との交流を促進する。

【 施策、評価 】

1. 各種演芸ボランティアを受け入れ、利用者の生活に刺激と楽しみを感じていただく。
 - ①少人数による有志の会（俳句、絵手紙）の実施は継続しており、5から7名参加。
 - ②大人数を対象とした手品、ウクレレ、カラオケ、ピアノ伴奏などの一芸を披露するボランティア団体については、売りこみのあったギター演奏のボランティアに来ていただいた。2回目以降は謝礼金を要求してきたため、招致せず。
 - ③行事の際の演芸ボランティアについては、萩市の自治会に協力を呼びかけ太鼓や日本舞踊のボランティアを招致した。
2. 個人やグループのボランティアを受け入れ、地域住民との交流を促進する。
 - ①居室清掃やリネン交換については、生活支援員がいるため積極的な募集はしなかった。
 - ②ボランティア希望者に対しては、事前のヒアリングと見学を行っており、受け入れに当たっての問題はなかった。

【 日程 】

| | | |
|----------------|-------------|------------|
| 日本舞踊（萩の会） | 奇数月第1水曜日 | 日本舞踊の披露 |
| ゆる体操 | 第1金曜日 | 簡単な体操 |
| 傾聴フレンズ | 第2火曜日、第3月曜日 | 話し相手 |
| ハーモニカ | 第3水曜日 | ハーモニカ演奏し歌う |
| 俳句の会、絵手紙 | 第4木曜日 | 俳句、絵手紙の作製 |
| 音楽ボランティア（コスモス） | 第4金曜日 | ピアノ伴奏し歌う |

3-10 機能訓練部門

【 目 標 】

1. 30年度介護保険法改正に合わせた個別機能訓練計画の作成及び実施
2. 多職種連携の強化
3. 地域へ貢献できる活動

【 施策・評価 】

1. 30年度介護保険法改正に合わせた個別機能訓練計画の作成及び実施することにより入居者様により適切なサービス提供を行う。

特養施設内 90 名（現在 81 名）の機能評価は個別機能訓練計画書としては全員に関わる事ができなかったが、褥瘡対策に関するケア計画書や経口維持会議、24H シートの作成に関わる事で全入居者へ何らかの形での評価を行う事ができた。今後は個別で訓練ができなくとも生活リハビリの指導などへつなげていきたい。

短期入所の個別機能訓練に関しては、担当療法士の出勤日に実施という形へ変更して再開したが、福祉用具専門相談員の講師を兼任していることもあり利用者様の要望に沿う形での介入が不十分な事もあった。

デイサービスでの機能訓練については算定要件の周知が不十分な事が分かり、再度関係職員へ説明を行った。また、新加算算定準備としてバーセルインデックスの点数を記録するよう指導していった。

（30年度新設の生活機能向上連携加算については要件に該当せず。）

H30年 3/31 時点： 特養個別機能訓練計画書作成者 61 名
S S 個別機能訓練実施者 4 名

2. 毎月実施される会議及び内部研修を通じて多職種連携の強化を図る

各委員会や会議・カンファレンス・内部研修会へ積極的に参加した。内部研修では「24Hシートについて」「腰痛予防のためのボディメカニクス」「車いす乗車姿勢について」「車いす移乗時の皮膚損傷事故防止について」等へそれぞれ講師としても参加した。介助動作指導やポジショニング、シーティングなども昨年度同様にユニットから依頼時に随時実施していった。

外部研修は「障害者職業生活相談員資格認定講座」「床ずれ対策セミナー」等へ参加。また、施設内の車いす・歩行器の管理簿更新や介助柵の管理簿作成にも着手した。

3. 地域へ貢献できる活動を行う

地域カフェでの体操指導をヨガインストラクターと協同体制で継続できた。

ほっとスペース稲毛ペコリーノでの福祉用具専門相談員の講師も短期入所担当非常勤職員により実施され、3月にはケイ・ティ・グループ合同研修会への出張講座という新しい取り組みにも関わる事ができた。

3-1-1 事務部門

【 目 標 】

事務部門は法人の基本方針・目標・中長期計画・重点目標を達成するために目標を以下の通り定める。

平成 30 年度目標

1. 人材確保の強化
2. 職員のスキルアップ支援
3. 新規事業準備
4. 福利厚生の充実
5. 施設経費削減

【 施策・評価 】

平成 30 年度施策と実績

1. 人材確保の強化
 - 1) 採用の窓口を拡大する。
 - 2) 業務範囲を特定する職員を確保する。(介護技術実習生、65歳以上の高齢者雇用、トライアル生)
 - 3) 就職支援制度の拡大をはかる。
 - 4) ペコリーノでの研修生の雇用推進(奨学金制度)

| | 採用 | | 退職 | |
|--------|----|-----|----|-----|
| | 常勤 | 非常勤 | 常勤 | 非常勤 |
| 介護職 | 2 | 4 | 11 | 3 |
| 看護職 | 1 | 2 | 1 | 0 |
| その他 | | 4 | 7 | 4 |
| 派遣(介護) | 2 | | | |
| 計 | 5 | 10 | 19 | 7 |

ハローワークについては採用率は低いですが、定期的に掲載を続けている。求人広告の反応は低いため紹介会社からの採用も行った。介護職では派遣職員を採用して足りない所を補った。技能実習生、EPA に関しては平成 30 年度は見送り。無資格で採用後、働きながら資格を取得する傾向が増えた。

2. 職員のスキルアップ支援

1) 奨学金貸付制度の周知 資格手当等の規定充実

平成30年度介護福祉士試験については、受験者6名、合格者4名の実績を出せた。

3.新規事業

幕張地区特養開設については辞退したため中止となる。

4.福利厚生の実施

・テーマパーク利用数は延べ290枚。「えらべる倶楽部」については利用率が2年連続低かったため今年度で終了する。

代わりにインフルエンザ予防接種料を法人にて負担していく予定。

5.施設経費削減

事務費に関しては横ばいだが、夜勤者夜食、給茶機の使用料金が高騰したため、今後、内容の見直しを行う。

| 【 業務スケジュール 】 | | |
|--------------|---|-------------------------------------|
| 月 | 総務・人事 | 経理・他 |
| 4月 | 昇給 非常勤職員契約更新 | 月次決算 |
| 5月 | | 第1回理事会 |
| 6月 | | 第2回理事会、第1回評議員会 |
| 7月 | 夏季賞与・処遇改善加算金支給 社会保険標準報酬月額基礎届 職員健康診断 | 労働保険料第一期納付 第3回4回理事会 |
| 8月 | | 第5回理事会 |
| 9月 | | 第6回理事会 |
| 10月 | | 労働保険料第二期納付 第7回理事会、第2回評議員会 |
| 11月 | 賞与人事考課（処遇改善加算金支給） | 上期期決算報告 第8回9回理事会 |
| 12月 | 冬季賞与 | 第10回11回理事会開催 |
| 1月 | 支払調書、法定調書提出 | 労働保険料第三期納付 第12回13回理事会 第3回評議員会 |

| | | |
|----|--|---------------------------------------|
| 2月 | | 事業計画作成 第14回理事会、第4回評議員会 |
| 3月 | 処遇改善加算金支給・昇給人事考課 非常勤職員面昇給人事考課談 特定従事者健康診断 | 第15,16,17回理事会開催 第5回評議員会 第6回評議員会 |

3-12 研修部門

1.事業方策に対する展開

- (1) 部内専従職員配置（介護福祉士職員 2 名配置）
（注）公益事業稲毛ペコリーノにおける講師 2 名兼任にて展開
- (2) O J T において新入職員導入研修実施後、配属ユニットリーダーと連携のもと状況確認、定期面談実施 フォローアップ・方向性・資質向上に向けた外部研修への推薦受講実施
- (2) キャリアパスの作成と共に上位職に提起し、就業規定に即したキャリアパス制度の構築提言

2、内容・案件に対する展開

- (1) 全職員対象受講希望アンケート実施 平成 30 年 4 月
研修意向に沿う研修提供検討後 管理職上申、稟議にて受講決定の方針
- (2) 施設内研修において外部講師招聘案は検討上申「園としてのケアの取り組み」の点において再検討課題となり未実施
- (3) 機関誌において各部門発信があり関係機関（稲毛ペコリーノ）と相談のうえ発行に関し見合わせる
外部発信として「敬愛大学生涯学習センター・セミナー」年 3 回実施
- (4) 「ケア基準書」改訂版作成、上申許可後、各関連部署配布

◆ 教育研修室業務内容及び報告

平成 30 年 5 月 生活支援職員勤務現況調査開始

平成 30 年 6 月 生活支援職員配置構成検討

平成 30 年 7 月 生活支援職員勤務配置説明会開催

平成 30 年 11 月 「新入職員導入研修改訂版」作成 関連部署配布

「O J T 研修プログラム」作成 関連部署配布

平成 31 年 1 月 「社会法人初穂会ケア基準書改訂版」作成 4 月配布予定

「社会福祉法人初穂会キャリアパス改訂版」作成 上位職提出

平成 31 年 2 月 「O J T 入職時保持資格・経験別プログラム」作成

「全職員対象研修意向アンケート」実施

外部研修

| 月 | 研修名 | 研修内容 |
|------|---|--|
| 4 月 | スキルアップ研修 千葉県認定調査員新規研修 | ・栄養情報提供書の在り方 ・認定基本項目、特記記入法 |
| 5 月 | 地域活動実践講座 認知症ケアじっくり取り組み研修 認知症介護基礎研修 認知症介護実践者研修 介護支援専門員研修 | ・ボランティア活動、募集法 ・地域で愛される施設づくり ・認知症介護基礎の学び ・認知症介護支援実践学習 ・地域包括ケアシステム展開 |
| 6 月 | 千葉認知症研究会 ポジショニング 排泄ケアセミナー | ・認知症ケアの在り方 ・移乗、移動ケアを学ぶ ・快適な排泄ケア |
| 7 月 | 介護技術研修 レクレーション介護士2級 食に関わる職員ユニットケア研修 介護支援専門員更新研修 | ・基本技術学習 ・レクレーションの展開方法 ・ユニットケアの食事提供法 ・地域包括ケアシステム展開 |
| 8 月 | 介護支援専門員更新研修 | ・地域包括ケアシステム展開 |
| 9 月 | キャリアパス研修/管理者編 | ・キャリアシステムの構築法 |
| 10 月 | 介護ロボットHAL見学会 クレームにさせない対応の基本 国際福祉機器展 高齢者権利擁護/身体拘束廃止 ユニットケアじっくり取り組み研修 | ・介護ロボット活用法見学 ・クレーム対応の在り方 ・福祉用具の活用 ・新任職員対象研修 ・ユニットケアの展開、実践 |
| 11 月 | 災害時の事業継続計画 介護支援専門員災害対策心構え 栄養トラブルへの対応の仕方 | ・災害時対策 ・利用者の災害対策/支援策 ・管理栄養士としての対応法 |
| 12 月 | 介護職種技能実習指導員講習 | ・技能実習生指導員研修 |
| 1 月 | 介護の学校 ディサービス生活相談員研修 虐待事例への対応/検討会 CKDと栄養、腎不全病態と現状 | ・介護の在り方、多面的学び ・生活相談員研修 ・介護支援専門員研修 ・疾病における栄養管理 |
| 2 月 | 床ずれ対策セミナー 人事考課制度の運用の在り方 | ・ポジショニングとバッドマット ・人事考課時の視点考察法 |
| 3 月 | 認知症介護基礎研修 | ・認知症介護基礎の学び |

・EPA 外部研修

| 年 月 日 | 研修名 | 開催場所 |
|------------------------|--------------------------|--------------|
| 平成30年6/16, 23, 30 7/17 | 介護技術研修 | 千葉中央介護専門学校 |
| 平成30年7月5日～6日 | 第1回集合研修 | 国際ファッションセンター |
| 平成30年10月29日～30日 | 第2回集合研修 | 国際ファッションセンター |
| 平成30年12月17日～18日 | 第3回集合研修 | 国際ファッションセンター |
| 平成30年4月～令和31年1月 | 日本語学習 介護福祉士試験対策 研修 | 稲毛ペコリーノ |
| 平成30年12月5日 | 介護福祉士対策講座 | 稲毛ペコリーノ |

教育研修室実績報告書 (H30.4.1~H31.3.31)

| 項目 | 月 | | | | | | | | | | | | | 計 |
|----------------------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|----|----|-----|---|
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | | |
| 新人職員導入研修(人数) | 1 | 1 | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 2 | 14 | |
| ベコリーノ初任者研修(日数) | 9 | 2 | 7 | 3 | 2 | 3 | 10 | 9 | 6 | 9 | 12 | 21 | 93 | |
| 実務者研修(日数) | 4 | 4 | 6 | 6 | 4 | 9 | 8 | 12 | 6 | 2 | 4 | 2 | 67 | |
| 福祉用具専門相談員研修(日数) | | | | | 1 | | | | | 1 | | 1 | 3 | |
| 実務者教員研修(日数) | | | | 2 | 2 | | | | | | | | 4 | |
| セミナー(件数) | | 1 | | | | 1 | | 1 | | | 1 | | 4 | |
| 介護福祉士受験対策講座 受験模試(日数) | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 2 | | | 6 | |
| 介護福祉士受験対策講座(日数) | | | | | | | | 1 | 3 | | | | 1 | |
| 外部研修(参加職員数) | 2 | 5 | 5 | 4 | 1 | 1 | 8 | 3 | 5 | 5 | 2 | 1 | 42 | |
| ベコリーノ受講生施設見学同行 | | | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| | | | | | | | | | | | | | 235 | |

3 - 1 3 営繕部門

I. 活 動

1. 車椅子管理の機能訓練士、理学療法士との連携
2. 建物等設備老朽化に伴う修繕に適宜、迅速な対応
3. 高額設備に対する定期的メンテナンスの徹底による保守費用の削減
4. 設備等の故障率把握による適切な保守管理

II. 施策・評価

1. 車椅子に管理No.を貼付し実数を把握できた。
管理項目、運用方法の分担は今後の課題
2. 修繕は高額の為、迅速に対応できなかった。
3. 定期的メンテナンスを実施できず、不具合で突発費用が発生し
費用削減には至らなかった。
4. 設備が多すぎて故障率把握ができなかった。
故障に応じて随時修理を依頼した。

| 年月日 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | | |
|---------------|--------------|----------------------------|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|------|-------------------|--|
| 設備名 | 交換 | | | | | | | | | | | | | |
| 非常電源バッテリー | | | | | | | | | | | | | 予定 未実施 | |
| 厨房食洗器交換 | 実施 | | | | | | | | | | | | 予定 | |
| 照明 | LED化で電カコスト削減 | | | | | | | | | | | 入替 | 水道工事が必要になった為遅れて実施 | |
| 換気扇交換 | 見積中 | 2-2二番トイレ、2-5共同生活室、医務室、異音あり | | | | | | | | | | | 予定 未実施 | |
| 電気錠交換 | 実施 | | | | | | | | | | | 予定 | 事故の恐れが出たため早めて実施 | |
| エレベーターバッテリー交換 | 交換 | | | | | | | | | | | 実施 | 予定 未実施 | |
| 非常用照明修理 | 実施 | | | | | | | | | | | 予定 | | |
| 正面玄関自動ドア | 実施 | | | | | | | | | | | | 未実施 | |
| 井水槽修理 | 修理 | | | | | | | | | | | 部品交換 | | |
| | 実施 | | | | | | | | | | | 予定 | | |
| 給水ポンプ修理 | 実施 | | | | | | | | | | | 未実施 | | |
| リースカーテン | | | | | | | | | | | | 予定 | | |
| 特養トイレ手すり | 見積待ち | 施行(仮) | | | | | | | | | | | 未実施 | |
| 更衣室鍵交換 | 実施 | | | | | | | | | | | 予定 | 施行上問題の為実施しない(強度) | |
| | | | | | | | | | | | | 予定 | 不要となった | |

セコムによる設備点検は予定通り実施

| 年月日 設備名 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---------------|--------------|------|---------|----|----|-------|-----|-----|-----|----|----|----|
| | セコムによる検査、清掃等 | | | | | | | | | | | |
| 消防用設備 | | | | | | 総合 | | | | | | 機器 |
| 空調和設備 | | | | | | 実施 | | | | | | 実施 |
| 上水受水槽、加圧給水ポンプ | | | | | | 清掃・点検 | | | | | | 点検 |
| 雨水槽、雨水・排水ポンプ | | | | | | 実施 | | | | | | 実施 |
| グリストラップ清掃 | | | 実施 | | | 実施 | | | 実施 | | | 実施 |
| 水質検査 | | | | | | 実施 | | | | | | |
| 簡易専用水道検査 | | | | | | 実施 | | | | | | |
| 昇降機設備 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 検定 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 |
| 空気環境測定業務 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 |
| ホルムアルデヒド測定 | | | | | | 実施 | | | | | | |
| 電気保安業務 | 点検 | 清掃点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 |
| 害虫防除業務 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 | 点検 |
| 特殊建築物定期調査 | (2年に1回) | | | | | | | | | | | |
| | | | 31年実施予定 | | | | | | | | | |

3-14 入浴部門

【目標】

1. 入浴の目的 心理的、生理的、社会的、文化的な目的を踏まえご利用者に安全で快適な入浴を楽しんでいただく。
2. ユニットケアによるマンツーマン入浴により近づける体制づくりに取り組む。
3. ユニット職員と入浴職員間の連携、伝達を確実にを行い、ご利用者それぞれに合わせた入浴を目指す。

【対策・評価】

1. 年間を通し月ごとに入浴剤や菖蒲、ゆずを購入しイベント入浴に取り組んだ。
特養、ショート、デイサービス共にとっても喜ばれた。
皮膚への影響等、問題はなかった。
デイサービスより、濁り湯は足元が見えなくなるため避けたい、との申し出があり、予定していた入浴剤を再度検討した。
2. マンツーマン入浴の取り組みは、ユニットによっては取り入れることができている。
特殊浴では新しい機械の導入によりストレッチャーが一台になりご利用者と職員の人数を減らすことで、よりマンツーマン入浴に近い体制をとることができた。
入浴方法のマニュアルを作成し、新人職員へ配布し標準手順に基づいたケアを徹底した。
特殊浴の使用方法マニュアルを作成し、機械の清掃、整備を徹底した。
3. 入浴担当とユニット職員との伝達を行い情報を共有しご利用者の体調や状態を把握し、ケアすることができた。
委員会により、各フロアの入浴状況を申し送り職員の人員の調整を行い週二回の入浴を行うことができた。

【考察】

入浴剤を取り入れることによりご利用者に大変喜ばれた。入浴時の会話や話題に繋がり入浴を楽しんで頂くことができる。今後も入浴剤を継続していく。

マンツーマン入浴への取り組みは人員の確保が必要である。

委員会により今後も各階の入浴状況や問題点を話し合い、全フロアで偏りのない入浴を提供していく。

| 実施したイベント浴 | | | | | |
|-----------|-------|--------|------|-------|-------|
| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
| サクラの湯 | 菖蒲湯 | 薔薇の湯 | 桃の湯 | ミントの湯 | 檜の湯 |
| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| ワインの湯 | みかんの湯 | 冬至 ゆず湯 | 林檎の湯 | レモンの湯 | サクラの湯 |

4 各委員会実績報告

4-1 安全対策委員会

【 目 標 】

利用者様の高齢化、重度化に伴い介護事故が利用者様の全身状態に与える影響が大きい事を認識し、全職員が知識・技術を研鑽し適切で速やかな対応が出来る様 事例などを用いたリスクマネジメントの研修を通じ習得を図る。
介護事故の原因究明・防止策立案が重要であり、施設全体の組織的な対策推進こそが事故を防止し安心して介護サービスを受けられる環境を整備する。

【 内 容 】

I 事故の把握

- 1、委員会開催時に各ユニットで発生したヒヤリハット報告書、事故報告書の件数及び、集計を行う（毎月）
⇒ヒヤリハット集計をユニットへの対策とし今後、ワイズマンでの入力していき集計しやすくし細かい発生状況や頻度など把握出来るようにする。

II 分析、防止策の実践できる組織体制整備・構築

- 1、委員会としての発生内容の中ですぐに対策が必要な事故、件数の多い事故などの検証を行う。（検証内容の選定については、毎月の会議の最後に決める）
- 2、ユニットからの事故防止策を基に委員会での再検証を行う。
- 3、検証した内容については、委員会での話し合いの内容をフロアーリーダーへ提出し各階で月1回行うフロアー会議でリーダーへ周知し、施設全体の事故対策、対応として捉える。
⇒離設事故など重大事故に対しては速やかに招集し対策会議を開催し、再発防止に努めた。

III 安全対策に関する研修会開催（緊急対応は必要時に随時、他、年1回）

- 1、新入職員に対しての夜間緊急時対応の研修会の開催（入職時、及び夜勤開始時に実施）

2、事例検討などを用いたリスクマネジメントの研修会の開催。

(研修委員会との連携にて H30 年 7 月実施)

⇒事例検討、施設内研修にて職員に対して周知徹底出来た。

IV 多職種、他部署との情報共有

1、機能訓練指導員、医療専門職、栄養士、介護専門職など様々な専門職の視点からも意見を集め防止対策に活かす。

2、施設内、全職員の情報共有を行い、見守り強化が必要な方には、多くの職員で関り見守りの協力と注意喚起を委員会として、各部署へ行っていく。

(研修会、メール配信などにて行っていく)

⇒今後、セキュリティの不具合の確認、見守りセンサー検討も委員会で実施していく。

V マニュアル・帳票類の見直し及び整備

見直しが必要なものに関しては委員会メンバーが話し合い速やかに取り組む。
現場に現行の書類の使い勝手を確認し整備を行う。

(マニュアルの見直しについては、必要時、最低年 1 回の見直しを行う)

⇒帳票類の確認は満足には出来ていない。記録類もワイズマンへ移行していき集計管理しやすくしていく。

4 - 2 衛生委員会

【目標】

労働災害防止の取り組みは労使が一体となって行う必要があるため、衛生委員会において労働者の危険又は健康障害を防止するための基本となるべき対策（労働災害の原因及び再発防止対策等）などの重要事項について十分な調査審議を行う。

- I. 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること。
- II. 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること。
- III. 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に関すること。
- IV. 前三号に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康保持増進に関する重要事項。
- V. 職員健康診断（年2回）、ストレスチェック（年1回）、職場巡視（週1回）

【施策・評価】

職場の健康障害防止・健康保持増進・労働災害防止のための活動を行うため以下の内容で年間計画をたてる。

I. 巡視チェックリストの提出・検討

1. 今年度巡視チェックリストの提出が、前年度に比べて良かった。これは、提出の呼びかけだけでなく、委員一人一人が職場巡視の重要性を認識してきた結果だと考える。次年度も委員がチーム一丸となって良い職場環境を作っていくために、巡視チェックの重要性の周知徹底を継続していく。また委員会では、委員一人一人が意見を述べられる内容を議案とし、積極的な意見交換を実施できる委員会にしていく。

II. 職員健康診断の実施

1. 今年度は9月に全職員対象、3月に夜勤従事者対象の健康診断を実施した。健康診断実施後、今年度も産業医への健康相談の希望があり、徐々に産業医へ相談しやすい環境作りができてきている。次年度も委員会から産業医への健康相談の発信を継続して実施していく。

Ⅲ. ストレスチェックの実施

1. 今年度は12月末に実施した。職員117名中102名提出（回収率約87%）という結果であった。今年度はチェック用紙を各ユニット・各責任者がまとめて回収、回収箱へ提出する方法を実施。結果、昨年度より回収率を大幅に上げることができた。次年度でも、ストレスチェックとは何か・なぜ実施するのかを全職員へ伝達し、積極的に参加するよう働きかけた上で、今年度の回収方法を実践。心身共に障害なく健康に勤務できる環境作りに取り組んでいく。

Ⅳ. 腰痛対策についての検討

1. 今年度は、ラジオ体操の積極的な取り組み、また軽体操やストレッチを検討し腰痛予防・腰痛緩和を図る予定であった。しかし、別事案の検討等で実施することができなかった。次年度は、職員の腰痛予防・腰痛緩和を優先事案として取り組んでいく。

Ⅴ. 働きやすい職場環境作り

1. 委員会からのメール発信で、衛生委員会の役割の周知を図ってきた。次年度もメールやポスター等を利用し、全職員が健康障害・労働災害なく勤務に取り組めるよう援助する。また、大きなストレスを抱えることなく、一人一人が働きやすい職場環境作りを図る委員会であるということを次年度でも伝達し、より良い職場環境を作っていくよう努める。

4 - 3 褥瘡対策委員会

【 目 標 】

適切なケアにより褥瘡が発生しないもしくは発生率が低い状態としQOL向上に努めることにより、心身ともに穏やかな生活を送られるよう支援する。

【施策・実施状況】

- 1、毎月1回委員会を開催し各部署からの現状報告、意見交換、問題改善に取り組んだ。
- 2、多職種連携により、褥瘡の早期発見に努めていても発生した場合はすみやかな早期改善を目指すための情報共有を行った。
- 3、褥瘡予防を目指した食事・排泄のケア、体位変換技術等を習得するために施設内研修を行った。
6月に2回開催。テーマ「褥瘡についての基礎知識と予防対策」
日常生活での褥瘡好発部位、早期発見方法、褥瘡予防方法、PTによるポジショニングの演習を行った。
- 4、介護保険改正に伴い、入所時及び1回/3か月ごと入居者別にモニタリング指標を用いた評価を行い、ケア計画書の作成と見直しを行う呼びかけと実施確認を行った。(7・10・1月実施)
- 5、年間褥瘡処置発生件数
 - 1) 褥瘡発生部位
仙骨部 2件
踵 5件 (いずれも入院中に発生し帰園)
 - 2) 皮膚トラブルを繰り返す部位
臀部、臀裂部 5件
 - 3) 対応策
 - ①毎日の医務処置と観察
 - ②原因の追求と対応策の提案
 - ③おむつ内環境を整える等の清潔保持。
 - ④皮膚の蒸れを軽減し皮膚トラブルの予防をするため、ラバーシートをはずすことを推奨。

⑤適宜、褥瘡予防用具の使用を推奨。

マキシフロートマット、スライディンググローブの使用。

⑥理学療法士より除圧、摩擦の予防、具体的な体位交換、ポジショニング法の指導を受ける。

⑦栄養面のサポート

3ヶ月で体重±3 kg以上の方をピックアップし、ハイリスク予備軍の確認を実施。

また、管理栄養士より低栄養の可能性のある入居者様のサポートを提案。

以上①～⑦の対応策により褥瘡予防、皮膚状態の増悪防止ができた。一方で同じ部位に皮膚トラブルが再発するケースもあった。

【考察】

表皮剥離や褥瘡等の皮膚トラブルが発生した時、関連部署との連携により情報共有、早期発見によりすみやかに早期対応ができた。今後も正しい姿勢、体位交換、清潔保持、栄養状態の観察、体調管理に努め褥瘡予防に施設全体で取り組むことを目指した呼びかけを続けていく。

引き続き褥瘡予防・対応に関する知識を得ていくために、次年度も施設内研修会を開催し早期発見、対応を目指す。

発生した場合は適切な褥瘡ケアを各部署と連携しチームケアとして取り組むこととする。

4 - 4 防災委員会

【目標】

1. 人的要因による災害の予防
2. 災害発生時の被害の軽減
3. 二次、三次災害の予防、被害の軽減
4. 拠点の福祉避難所としての受け入れ状態の整備

【施策・評価】

1、防災訓練の実施

- 1) 9月と3月に実施しました

9月は2階汚物処理室、3月は地域交流室を火元として実施しました。

火元を変えたことにより、意識の変化が見られた。

だが、携帯電話のバッテリーが切れていることやフロア間での協力体制ができていなかった。

2、防災に対するアンケートの実施

- 1) 煙による火災報知器の起動の件と意識調査の一環として実施

防災に関する認識に相違を少なくすることができた。

3、拠点の福祉避難所について

- 1) 施設長より指示がありアンケートを実施

拠点の福祉避難所への認識に誤りがあったため、正しい知識を伝達した。

ただ、行政との協力体制に対しては、施設としての在り方に関するこのため、施設長等の経営者からの指示を仰ぐ。

4、設備点検の実施

- 1) 日常の点検を委員に指示した。

半年間を継続できたが、人員不足による業務の増加、利用者への配慮不足が見受けられ、中断した

5、備蓄について

- 1) 栄養課の協力のもと、備蓄の在庫のチェックを実施した。

外の備蓄倉庫への備品の移動を実施し置き場を分散させることによりリスクを低減させた。ただし、職員の分を確保していないことが判明したが、備蓄の管理場所が確保できず、購入に至らず。

4-5 食中毒蔓延防止・感染対策委員会

【 目 標 】

感染症・食中毒における蔓延防止委員会は社会福祉法人初穂会の理念、基本方針、中長期計画・重点目標を達成するために目標を以下の通り定める。

1. 利用者様の高齢化・重度化に伴い、感染症・食中毒が利用者様の全身状態に与える影響が大きいことを認識し、全職員が知識・技術を研鑽し適切で速やかな対応が出来るよう研修を通じ習得を図る。
2. 利用者様が安心して生活出来る環境を作る。

【 対策 評価 】

| | 委員会 | 活動内容 |
|-----|---------|-----------------------------|
| 4月 | 委員会開催 | 感染対応グッズチェック表の配布 |
| 5月 | | デング熱対策マニュアル見直し |
| 6月 | | 食中毒対策の実施（手洗いについて施設内研修） |
| 7月 | 委員会開催 | 感染予防呼びかけ |
| 8月 | | インフルエンザ・ノロマニュアル作成 |
| 9月 | | インフルエンザ・ノロマニュアル完成 |
| 10月 | 委員会開催 | ノロマニュアル見直し・職員体温チェック、マスク着用開始 |
| 11月 | | ノロ・インフルエンザについて施設内研修 |
| 12月 | 保健所研修参加 | 感染予防対策の実施・次期事業計画作成 |
| 1月 | 委員会開催 | 感染予防対策の実施 |
| 2月 | | 感染予防対策の実施 |
| 3月 | | 総括 |

1. 新入職員・中途採用職員に対する、入職時の研修はマンパワー不足の理由から委員会としての研修を実施することは出来なかった。しかし、配属先ユニットにて日々の業務の中で感染蔓延防止に対する対応を委員会から職員へ感染予防に対する注意喚起をメール送信し感染蔓延の予防を図った。

2. インフルエンザの研修内容はノロウイルス・インフルエンザに関する資料を作成。参加者は少なかったものの、その資料をもとに口頭で説明、手洗い・ガウンテクニックに関して

委員によるデモンストレーションを実施。その後、参加職員に実技してもらい不明点をその都度説明した。

感染症および食中毒は年間を通じて蔓延するリスクがあるため、今後も年2回開催できるよう努めていく。

3. デング熱、インフルエンザ発生時のマニュアルの見直しを行うことが出来た。

4. インフルエンザについては、施設全体にメールにて発症の連絡ならび注意喚起を実施した。感染予防・発生時の迅速な対応のために、発生時の状況・対応についての記録を作成し、今後の対策に努めていく。

5. 官公庁等からの情報に関しては、メールや研修にて職員へ伝達し周知徹底に努めた。結果、ノロウイルスは発症ゼロ、インフルエンザについては発症者が出たが、流行最高時の発症は防ぐことは出来た。

今後も委員会を中心に、適宜メール配信、また研修を通じて職員全体への周知徹底を図っていく。

【総評】

- ・インフルエンザについて、職員、利用者とも拡大せずに最小限に防げた。
- ・インフルエンザマニュアルの見直しと変更を行った。
- ・ノロウイルス発症は、ゼロ。
- ・11月開催のグループワーク（インフルエンザ、ガウンテクニック、ノロウイルス）の勉強会は参加者人数が少なかった。

4 - 6 広報行事委員会

【 活動内容 】

| | 委員会 | 活動内容 |
|-----|---------|---------------|
| 4月 | 毎月第4月曜日 | 季刊誌春号発行 |
| 5月 | | 縁日準備 |
| 6月 | | 縁日 |
| 7月 | | 季刊誌夏号発行 |
| 8月 | | |
| 9月 | | 敬老会、秋祭り準備 |
| 10月 | | 秋祭り準備、季刊誌秋号発行 |
| 11月 | | 秋祭り、さんま |
| 12月 | | クリスマス会、餅つき |
| 1月 | | 季刊誌冬号発行、新年会 |
| 2月 | | 豆まき次期事業計画作成 |
| 3月 | | 総括 |

「評価」

- 縁日：職員の人員不足により当日縁日を楽しめなかったとの意見が多く聞かれた委員も初めての方が多かった為、作業をスムーズに行えず当日の動きがよくなかった。
- 敬老会：今年度は昨年29年度同様各ユニットでお祝い膳を召し上がって頂き歳祝いの方に施設より表彰状を贈呈。
各ユニットに一つ花束も一緒に贈呈。
利用者様ご家族からは歳祝いの方に花束を贈呈してほしいとお話も受けた。
- 秋祭り：職員の負担等を考え時期をずらし行いました
日取りも良く時期は良かったと思いますが、地域のイベントと被ってしまった為利用される方がすくなかった。
- 餅つき：12月28日に餅つき実演を各フロア、デイサービスをまわり、お汁粉を食べ年越し準備が出来た
- クリスマス会：各ユニットにホールケーキ1つ・シャンパンを用意し皆様と一緒に飲んで食べて楽しんで頂けた

- 新年会：ボランティアで萩の会を招き利用者様前で踊りを踊って頂き楽しんで頂けた
- 豆まき：各階にて豆まきを行い利用者様を含め職員も楽しんで頂きました
- 季刊誌：春、夏、秋、冬号として年4回発行、新入職員紹介、イベント報告

総評：施設行事、季刊誌発行を中心に活動してきた。地域の方々やボランティアの協力もあり施設行事を無事に終えることができました。

今年度は秋祭り・縁日・クリスマス会と施設行事も増えとても濃い1年だったと思います
反省点はたくさんありますが、入居者様により楽しんで頂けるよう努めていきたい
地域と連携しイベント開催して萩台を盛り上げていきたい。

4－7 拘束廃止・虐待防止委員会

【平成30年度事業計画書に記載されている今年度の目標】

拘束廃止を目標とすることで、日常業務での取り組みやユニット内での連携において各職員が必要な情報を共有し、施設全体で拘束を行わないサービスを提供する。

拘束廃止を実現していこうとする取り組みにおいて、その過程の中で生じた課題を受け止め、それらをケアの質の向上のきっかけとし、拘束廃止を最終目標とせず、よりよいケアの実現に向けて取り組んでいく。

【具体的な活動報告】

- ・安全対策委員会と合同で会議を開催し、連携をしながら意見交換、対策協議などを行った。
- ・身体拘束を行う可能性のある入居者に関する現状の把握と、問題に対する対応策の意見交換を毎月行った。
- ・内部研修（※法定研修）を開催した。

実施日：9／10（月）、9／25（火）、12／10（月）、12／25（火）

テーマ：「高齢者の虐待防止・身体拘束廃止について」

- ① 身体拘束
- ② 身体拘束をせずに行うケア
- ③ スピーチロック

の基礎についての研修とした。

事例検討の時間も設け、「考える研修」とした。

- ・現在は夜間のみ居室の窓が開かないよう鍵を設置しているユニットがある。
最終的に鍵が外せるよう、ユニット職員を含め対応を考えていく。

【今後の活動について】

今後も引き続き「生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合は身体拘束が認められているが、当施設では身体拘束を廃止していく姿勢を堅持することを重要とする」という目標を第一として考え、入居者が安心・安全に暮らすことができる環境づくりと生活の質の向上を図っていく。

拘束廃止・高齢者虐待にかかわる介護保険法を遵守し、減算対象とならないようにする。

「拘束廃止」をゴールとせず、個々の課題を真摯に受け止めよりよいケアの実現に向けて行くことを目指していく。

4－8 教育研修委員会

I. 目 標

当施設の法人理念に基づき施設を利用する入所者と共に成長し、当施設で働く全ての職員がユニットケア運営委基準第三十三条にある「暮らしの継続を図る」の基本方針を理解し、その原理原則を達成するために必要な介護の知識並びに技術を習得するために必要な研修を開催することを目的とする。

1. 重点目標

- 1) 当施設で必要とされる研修の開催と参加率の向上
- 2) ユニットケアに関する知識の向上

II. 活 動 報 告

| | |
|---|------------|
| 4月：「当施設における経口維持加算について」 「24H シートについて」 | 参加者 計 18 名 |
| 5月：「食中毒の感染と予防について」 | 参加者 計 20 名 |
| 6月：「褥瘡対策について」 | 参加者 計 16 名 |
| 7月：「認知症について」 | 参加者 計 17 名 |
| 8月：「看取りについて」 | 参加者 計 15 名 |
| 9月：「高齢者の虐待防止・身体拘束廃止について」 | 参加者 計 18 名 |
| 10月：「腰痛予防のためのボディメカニクス」 | 参加者 計 17 名 |
| 11月：「インフルエンザ等の感染症の予防及び蔓延防止について」 | 参加者 計 13 名 |
| 12月：「高齢者の虐待防止・身体拘束廃止に関する研修」 | 参加者 計 14 名 |
| 1月：「車いす乗車姿勢について」 | 参加者 計 12 名 |
| 2月：「車いす移乗時の皮膚損傷事故防止について」 | 参加者 計 10 名 |
| 3月：「事故報告書について」 | 参加者 計 12 名 |

※4月～12月の期間、内部研修後「ユニットケア研修テキスト」を用い小勉強会も開催した。
※昨年度同様に研修不参加者のために各ユニット・部署計 17 か所へ研修資料も配布した。

Ⅲ. 施 策 評 価

法定研修の開催は求められている回数をそれぞれ実施できたが、参加率に関しては十分な成果は上げる事はできなかった。月に2回同内容で開催することは昨年度と同様に継続し、開催日は年間計画を作成した際にメールでの通知と掲示板への張り出しを行い、テーマの変更を行っても開催日自体は変更しないようにしていたが合計参加人数が10～20名と昨年度より減少（昨年13～32名）した。

人手不足のため現場から研修へ人員を回せなくなっている事が要因として大きいですが、必須研修は全職員対象という意識自体が施設全体に未だ周知されていない事が問題の根底としてあると感じた。

4－9 排泄支援委員会

【目標】

排泄は非常にプライベートな行為であるため、誰かの手を借りることに抵抗がある。

また、失禁などの失敗をしたときにネガティブな状態に陥ったりします。

自尊心を傷つけずに生活機能の維持を図る支援を目標に、多職種連携による日常生活動作能力（ADL）の維持・改善に努める。

【施策・実施状況】

多職種協働による支援計画を作成し、日常生活動作能力に基づき新たな評価を設ける。

- 1) モニタリング指標を用いて、入所中の利用者について6月15日までに69名の評価を実施。12月までに追加7名評価を実施した。

排尿・排便が「全介助」「一部介助」「見守り等」の目安はガイドラインに沿い、認定調査テキスト2009改訂版（平成27年4月改定）を基に評価を行った。

ガイドラインに沿って排泄支援計画書について取り組んでみたが、書式の確認等の作業が滞り、委員会として先に進めることができなかった。

- 2) オムツメーカーが変更になったことにより、オムツの当て方の講習会の開催をした。排泄表の変更等、各ユニットにお願いし実施できた。しかし、1年が経過し、不適正なパットの使用が見られるようになり、次回講習会の開催に向けて活動している。

- 3) 24Hシートを活用し、入居者にあった排尿・排便時間のルーチン化については、各ユニットにおいて24Hシートをもとにできているととらえ、排泄委員会としては関わらなかった。

【今後の活動について】

上半期は排泄と皮膚に関する職員の意識改革に重点をおき、講習会の開催、また委員がフロアの排泄を見回り、適正化を図れるよう支援していく。

下半期は排泄支援計画書について、書式を加算の取得可能なものに多職種連携して仕上げていく。

5 地域福祉部門

I. 地域カフェ こひつじ（認知症カフェ）

毎月 第二・第四土曜日にて開催し、平成 30 年度は 7 月～9 月にかけて、ことぶき大学のボランティアの方にご参加いただいた。また 9 月よりデイサービス利用者がケアマネージャーの薦めで、御家族の同意を得てカフェスタッフとして参加、配膳や下膳、食器の片付けなどを手伝っていただいております、認知症カフェの目的に更に近づいた活動となっている。前年度より引き続き機能訓練士による体操、ヨガインストラクターによるヨガ体操も行われており、カフェのお客様にご好評いただいている。また、第四土曜日には、話し合いの題材を提供し、参加者にディスカッションをしていただき、介護に対する不安や疑問などの解消へ繋げられる体制を整えている。

平成 30 年度 地域カフェ利用者数

| 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|------|------|------|-----|------|------|------|------|------|------|-----|------|-------|
| 20 人 | 17 人 | 13 人 | 6 人 | 19 人 | 25 人 | 25 人 | 12 人 | 8 人 | 16 人 | 9 人 | 12 人 | 177 人 |

※7 月・第四土曜日 台風の為、カフェ中止

※カフェスタッフ参加者は除く

II. こども食堂

毎月 第一金曜日、16:30 より開催、毎回 4～6 名の子供達が参加しており、簡単な調理や会話を楽しんでいる。本年度は、千葉市社会福祉協議会職員が来園・見学され、協議会が作成する『社会福祉法人による「地域における公益的な取組」のための事例集』に事例のひとつとして掲載される事となった。

平成 30 年度 こども食堂利用者数

| 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|-----|-----|-----|------|
| 4 人 | 4 人 | 5 人 | 5 人 | 0 人 | 5 人 | 4 人 | 6 人 | 6 人 | 6 人 | 5 人 | 5 人 | 55 人 |

※8 月、夏休み期間の為、食堂中止

千葉市社会福祉協議会・事例集への掲載

<活動事例7>

多世代型食事会（こども食堂）

社会福祉法人初穂会 特別養護老人ホーム 稲毛こひつじ園

…稲毛区



Ⅲ. 買い物支援

平成 30 年 7 月より開始、毎月・第一第三金曜日、10：30 よりスタート。当施設のドライバーが運転する送迎車に地域住民の参加希望者と買い物に同行する協力員が乗車し、買い物の支援を行った。千葉市社会福祉協議会稲毛区事務所主導のもと当施設・自治会・民生委員・社会福祉協議会の 4 者で協定書を作成し、支援実施日には千葉市社会福祉協議会稲毛区事務所の担当者も同行し、対応にあたっている。

6 ほっとスペース 稲毛ペコリーノ

I. 介護人材の輩出と育成

1、実施状況

| 講座名 | クラス | 受講生 | 合計（延べ人数） |
|------------------|-----|-----|----------|
| 介護職員初任者研修 | 12 | 90 | 424 |
| 介護職員実務者研修 | 14 | 133 | |
| 福祉用具専門相談員 | 8 | 83 | |
| 同行援護研修（基本・応用） | 8 | 64 | |
| レクリエーション介護士2級講座 | 3 | 8 | |
| 介護福祉士試験対策（講座・模擬） | 4 | 46 | |

※その他

- ・千葉県委託事業の受託（ひとり親家庭就労支援事業、外国人介護職員日本語講習会）
- ・木更津市外国人材に関する講演依頼
- ・出張講座の開催（実務者研修：木更津市、茂原市 介護福祉士試験対策：東京）

2、振り返り

昨対 実務者 104%、福祉用具 153%と福祉用具が好調。要因としては、週1日クラス・短期クラス、開講時期の考慮、過去の修了生（就労先）への提案などが考えられる。一方、人材獲得が困難となっている状況と同様に初任者受講者数が85%と減少している。対策として、地方への出張開講・県の委託事業を受託することにより、新たな事業への拡大を行った。

今後の介護人材の傾向を踏まえると、受託事業の「ひとり親家庭就労支援事業、外国人介護職員日本語講習会」など、外部環境・行政機関の傾向に対応するべく「すみ分け」した学習方法を構築する必要がある。

II. 地域福祉を支えるセミナー

1、実施状況

| 開催 | 実施（敬愛大学） | 対象 | 内容 |
|-----|------------|------|--|
| 5月 | 敬愛大学生涯学習講座 | 地域住民 | "知っ得" 認知症の保険の基礎知識 ～ どこで？ 何を聞けばよい？～ |
| 9月 | 敬愛大学生涯学習講座 | 地域住民 | "知っ得" 老人ホームの基礎知識 ～ いろいろあるけど何が違うの？～ |
| 11月 | 敬愛大学生涯学習講座 | 地域住民 | "知っ得" 認知症のこと（その①） ～ 今日は何曜日か言えますか？～ |
| 2月 | 敬愛大学生涯学習講座 | 地域住民 | "知っ得" 認知症のこと（その②） ～ 家族が地域で安心して暮らすために～ |

| 開催 | 実施（各機関） | 対象 | 名称 | 内容 |
|-----|------------------|-----|-----------|-----------|
| 5月 | 千葉県ことぶき大学校 | シニア | 活動団体交流広場 | 生徒に対し団体紹介 |
| 7月 | 若者サポートステーション | 若者 | 合同就職フェア | 生徒に対し団体紹介 |
| 8月 | サポーセンターオアシス | 若者 | 体験ボランティア | 体験シートの提示 |
| 9月 | ハローワーク | 利用者 | 合同就職フェア | 参加者に団体紹介 |
| 9月 | CANS（児童養護施設就労支援） | 利用者 | 体験ボランティア | 体験シートの提示 |
| 10月 | マザーズハローワーク | 利用者 | 介護のお仕事カフェ | 参加者に団体紹介 |

2、振り返り

地域セミナーについては、敬愛大学との連携により、当該大学の生涯学習講座にて実施。各回定員 20 名に対し、15 名～20 名の集客があり好評を得た。

今後は、当該セミナーを通じて、こひつじ園のボランティア、パート募集なども行う予定。

次年度は、ペコリーノ開催のセミナーも再開予定。

また、就職支援活動（こひつじ園への就労活動）では、「若者・母子家庭・アクティブシニア」等に切り分け、各活動団体に対し、説明会などの参加提案を行い、参加す

ることができた。

今後は、各団体に対し、より具体的な募集ツールを作成し提案を行う。

Ⅲ. 学習支援事業

1、実施状況

| | 児童・生徒数 |
|-----|--------|
| 小学生 | 4名 |
| 中学生 | 2名 |
| 高校生 | 0名 |

2、振り返り

稲毛区の「子育て支援ネットワーク」への参画、「夏の勉強会」の開催、ワーカーズコープの就労支援事業との連携により、延べ6名の利用者が増加。

保護者の声を聞くと、学童や定員で利用できない、又は大人数が苦手だから。といった声が目立っていた。

また、千葉市こども未来課よりホームページ掲載依頼があるなど、認知度が上がると共に活動の必要性も感じる1年であり、今後も、稲毛区保健福祉センターや双葉養護学校とも柔軟に連携し、地域ニーズを汲み取った活動を目指していく。

社会福祉法人初穂会 事業報告

編集：稲毛こひつじ園 事務課

令和元年 5月25日発行